

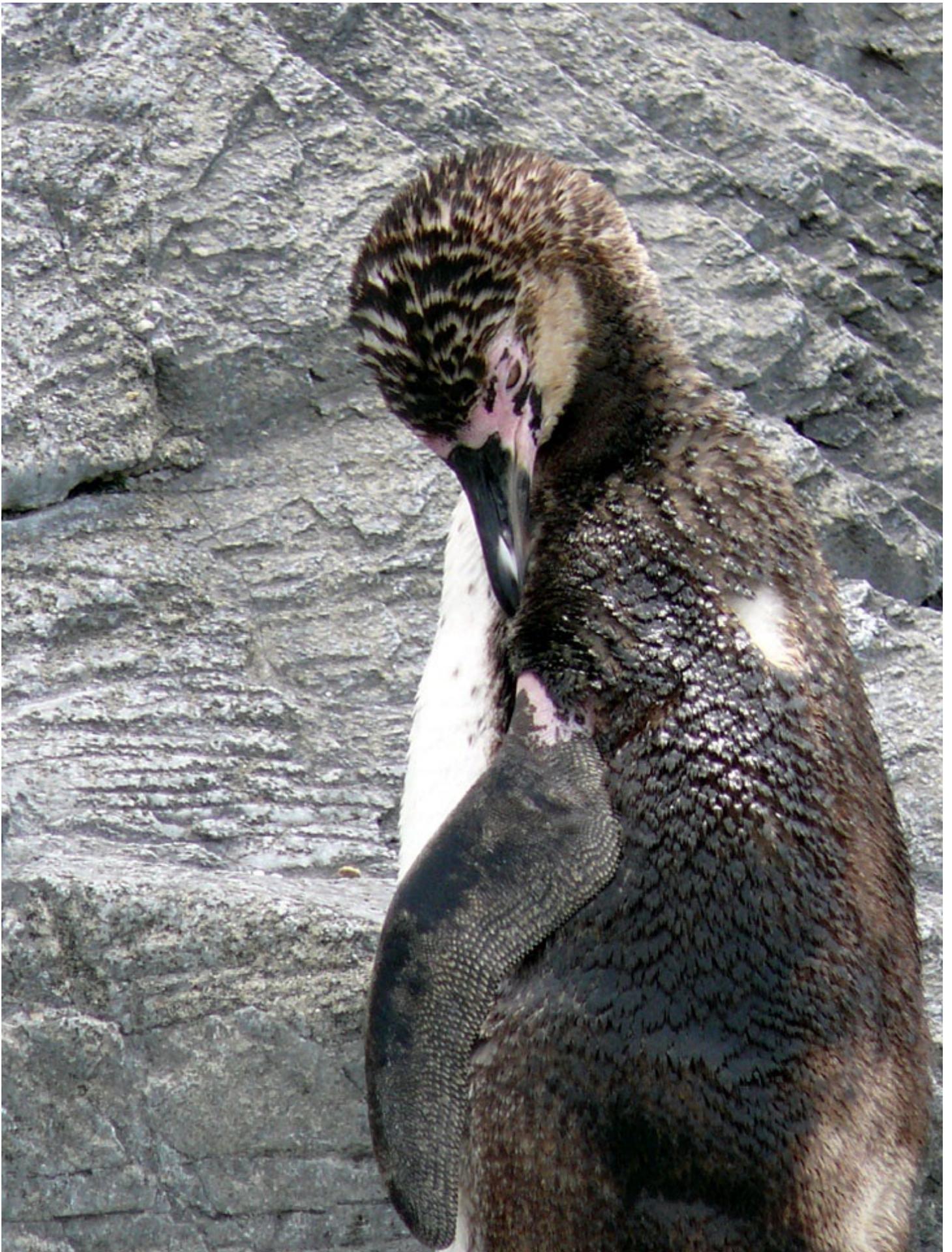
- 脱走ペンギン写真集 -

# 幼鳥 337 号の憂鬱

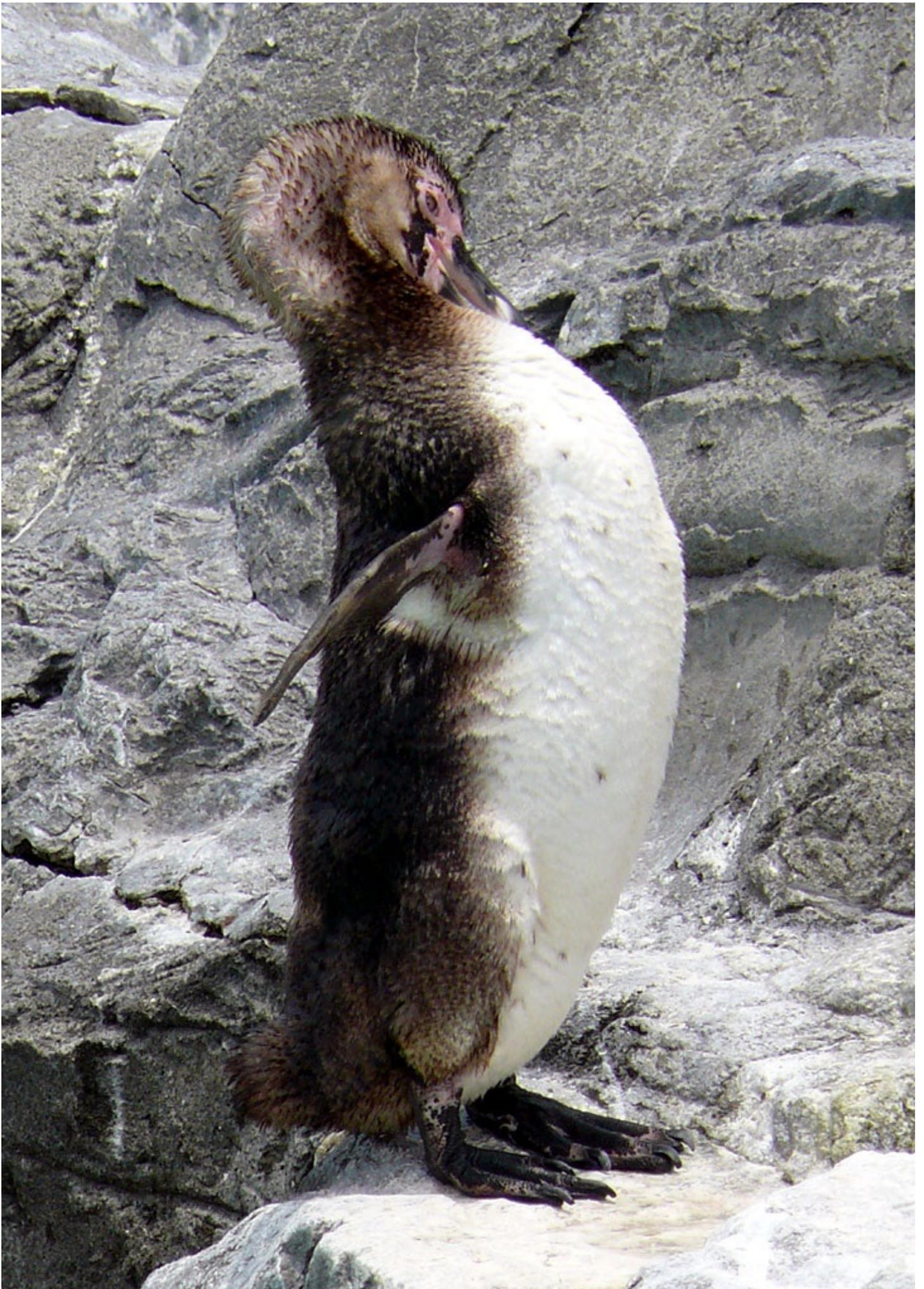
写真・文  
いたざわ しじま



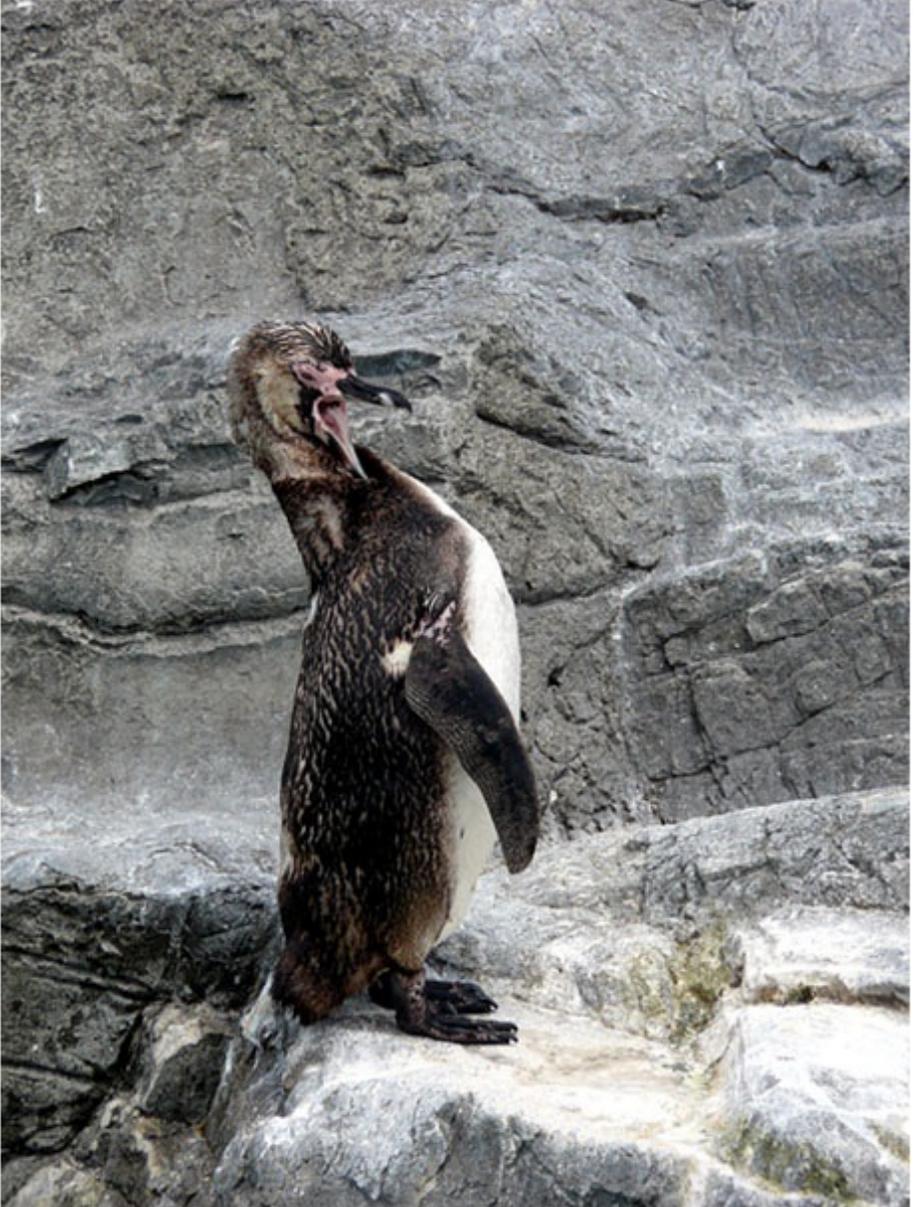
どこかに行きたかったとか、何かになりたかったとか、そんな事考えてたわけじゃない。

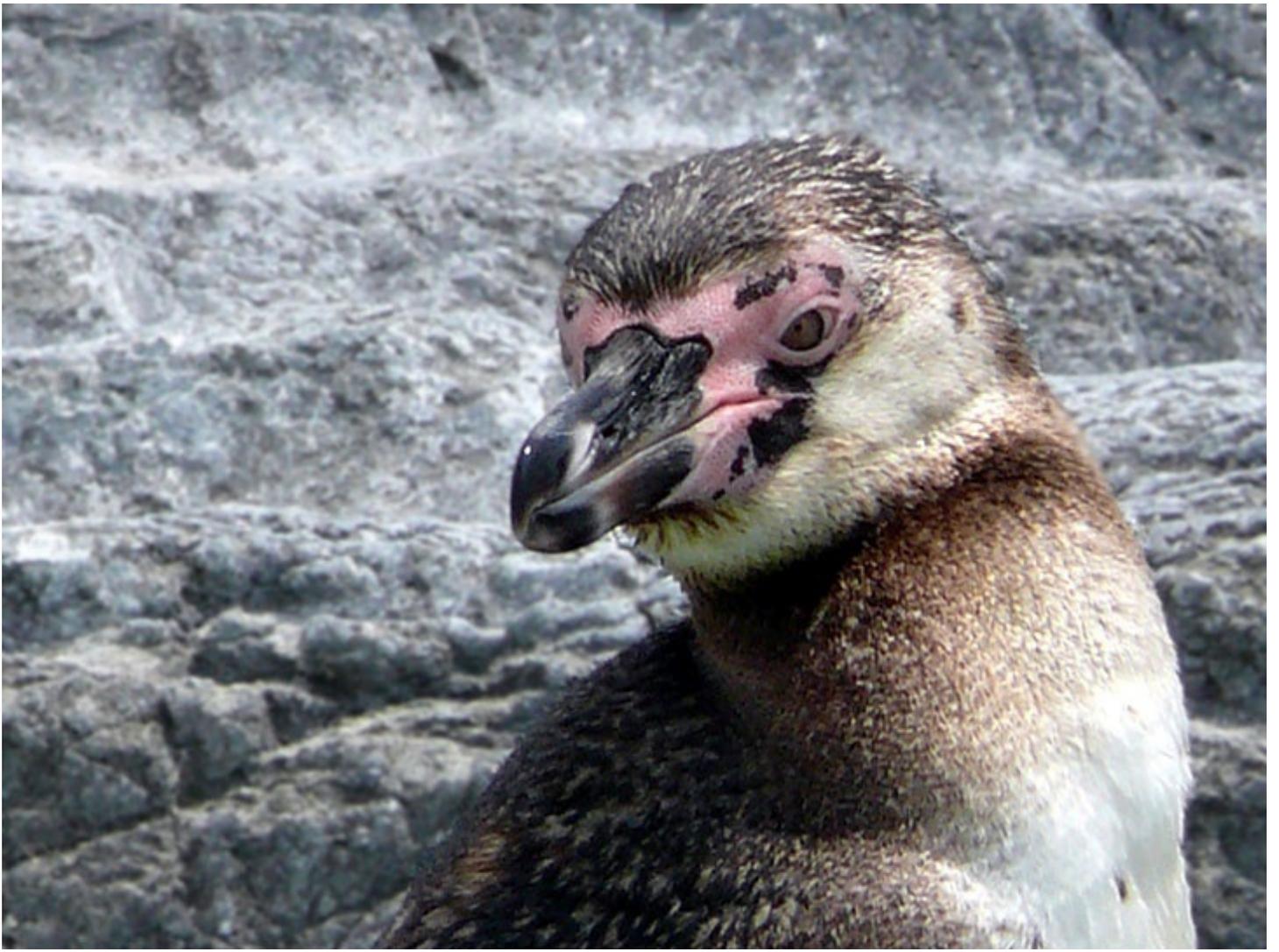


肩のハゲは勲章なんかじゃないし、自慢にもしてない。誰だって生きてれば多かれ少なかれ傷付くもんだ。



この胸筋だって、なろうと思ってなったわけじゃない。ただの生きて来た結果だ。





孤独が怖いんじゃない。孤独を怖がるようになるのが怖いんだ。



飛び込む時はいつも少し緊張する。



緊張感をなくしたら、痛いめにあうからだ。

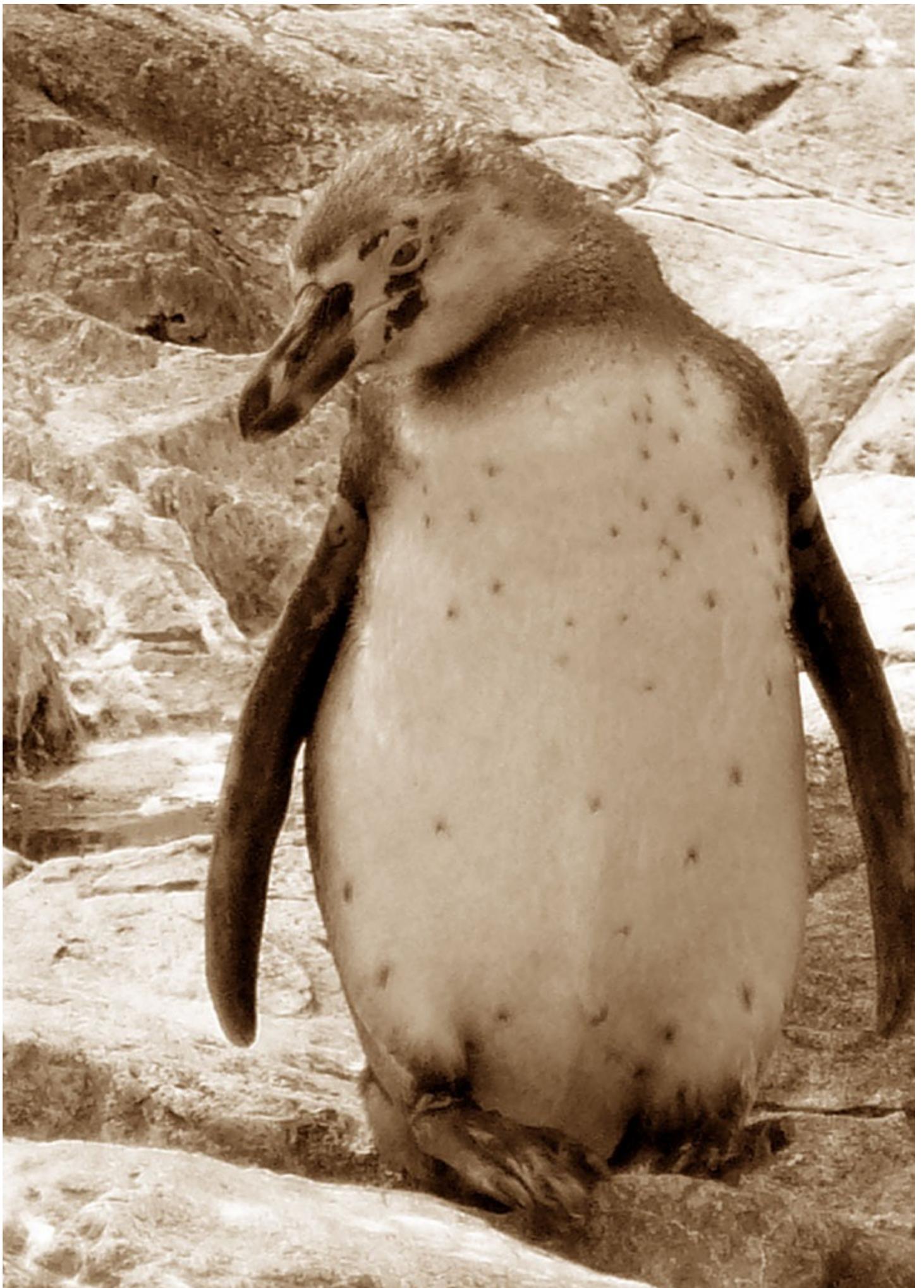


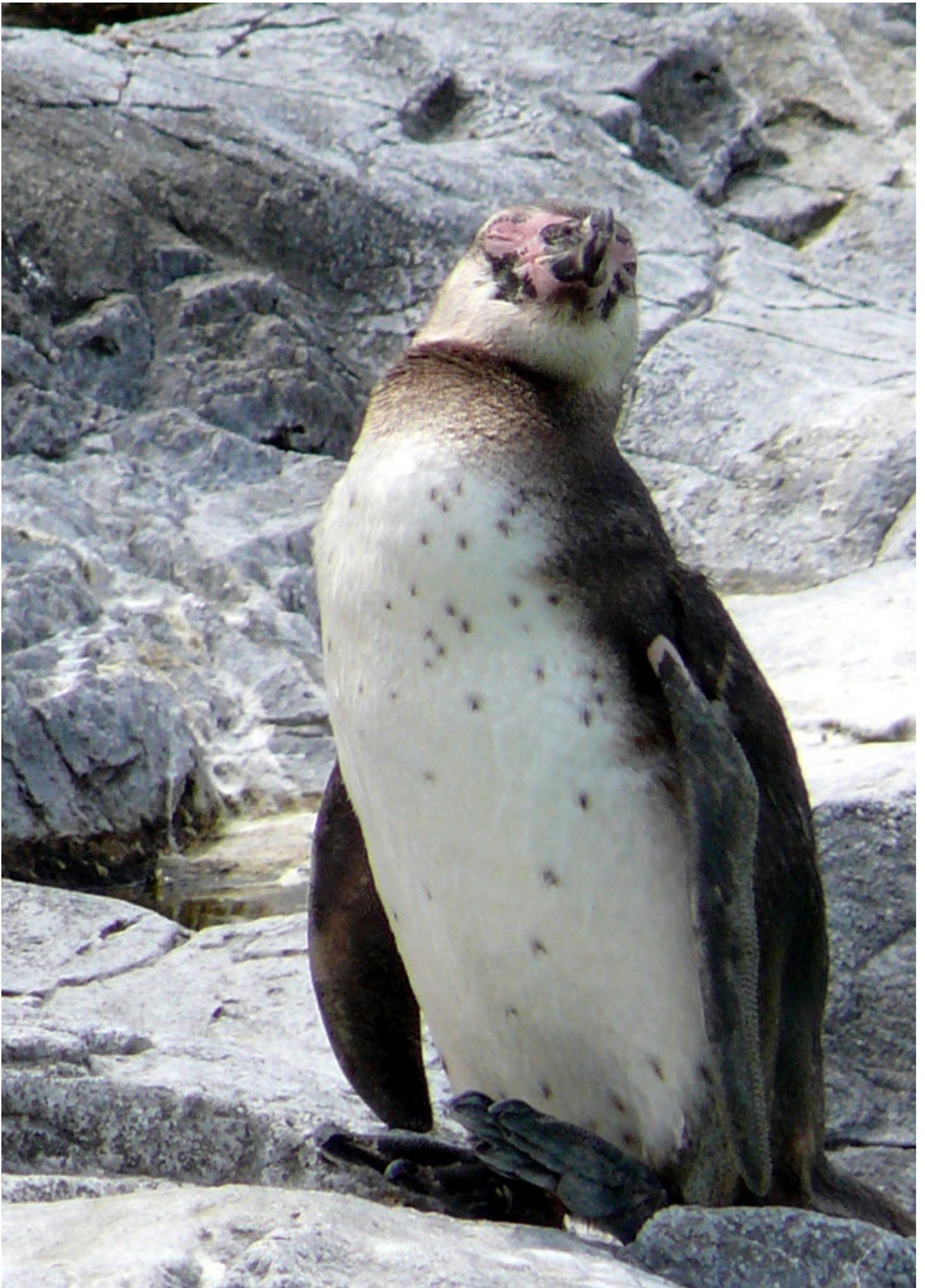


たまに夢を見る。



夢ばかり見てるわけじゃないけど。

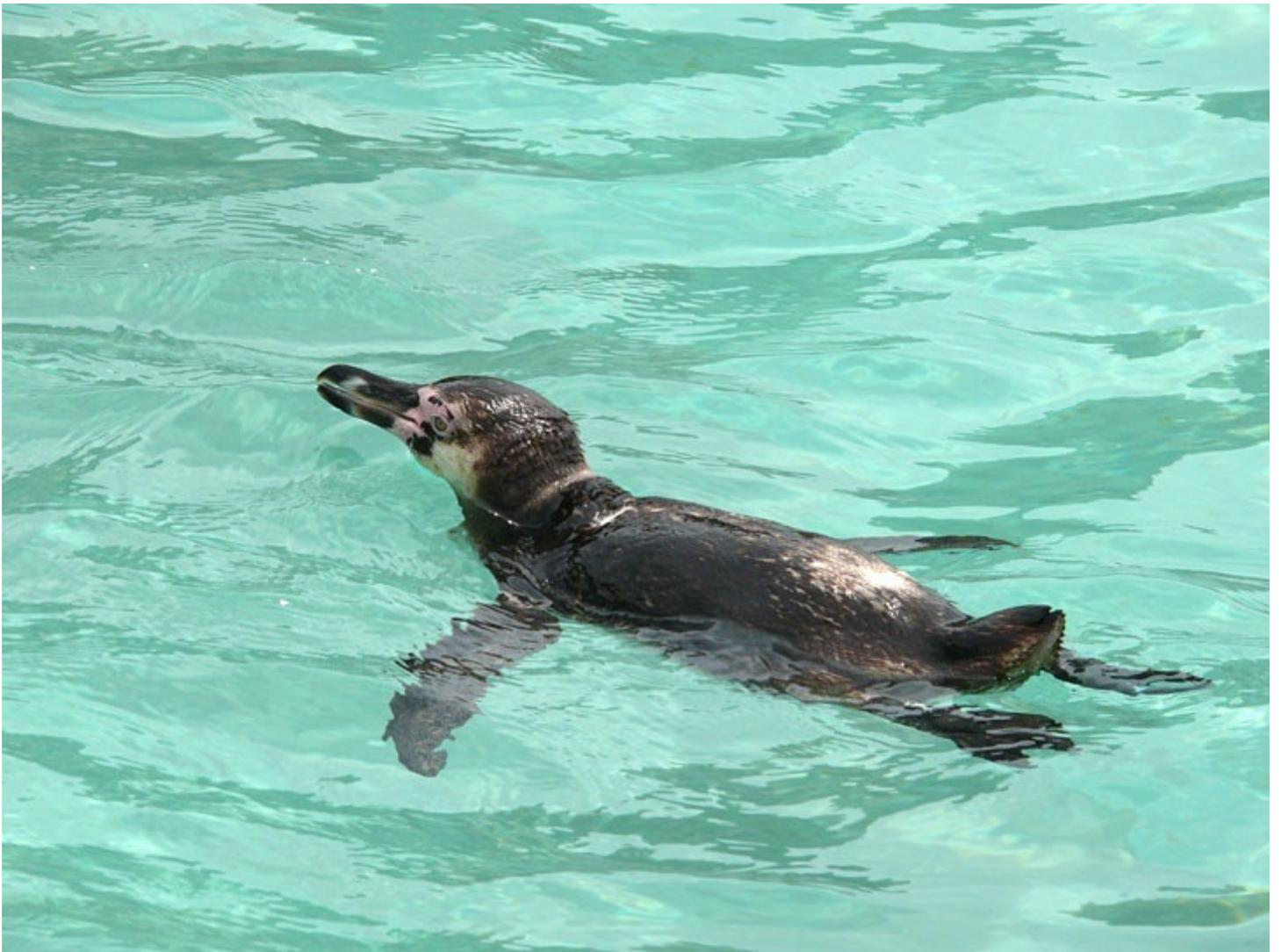




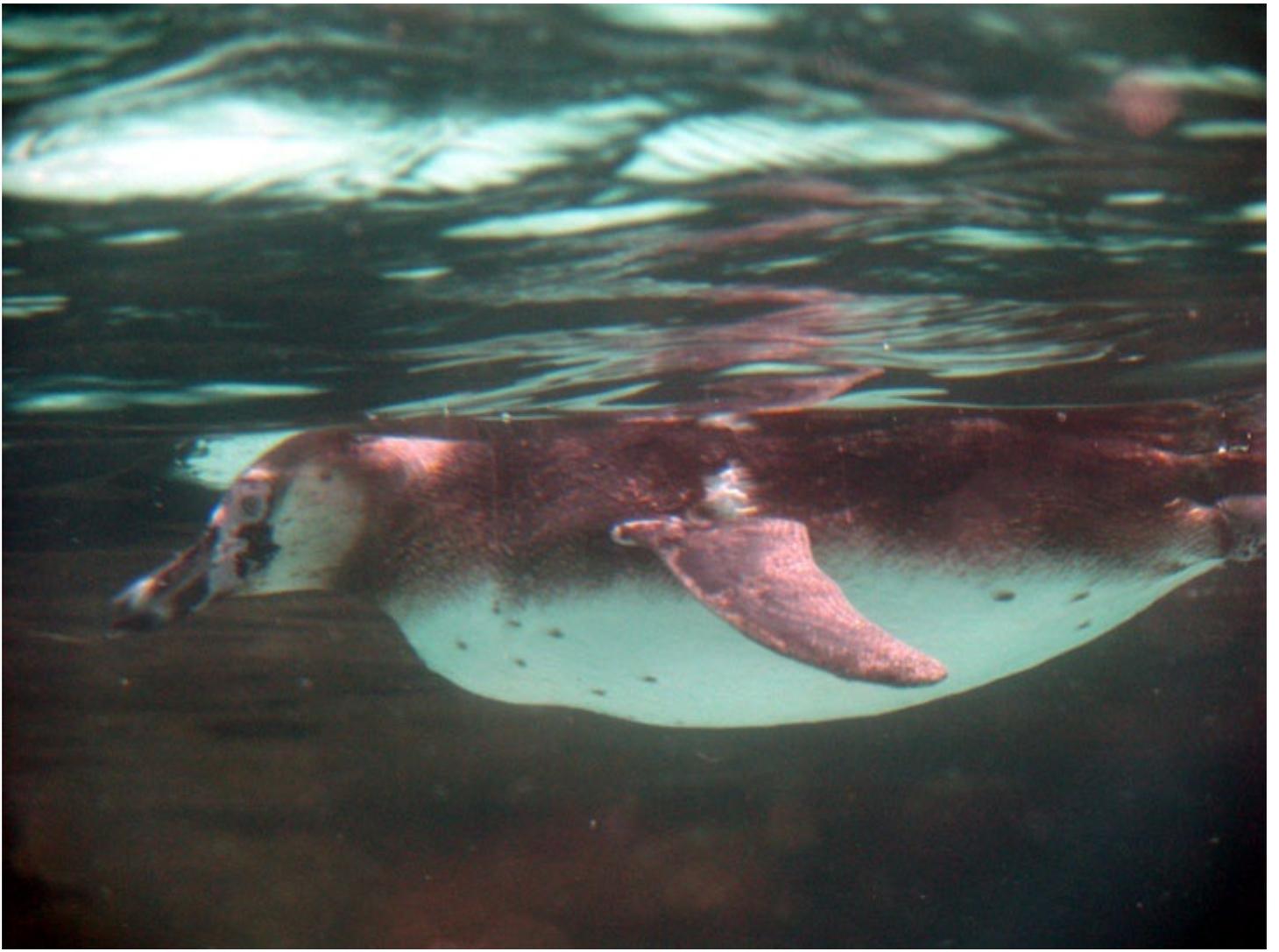
おひさまは、どこでも同じように暖かい。それが、どれだけすごい事か、前よりは知っている。



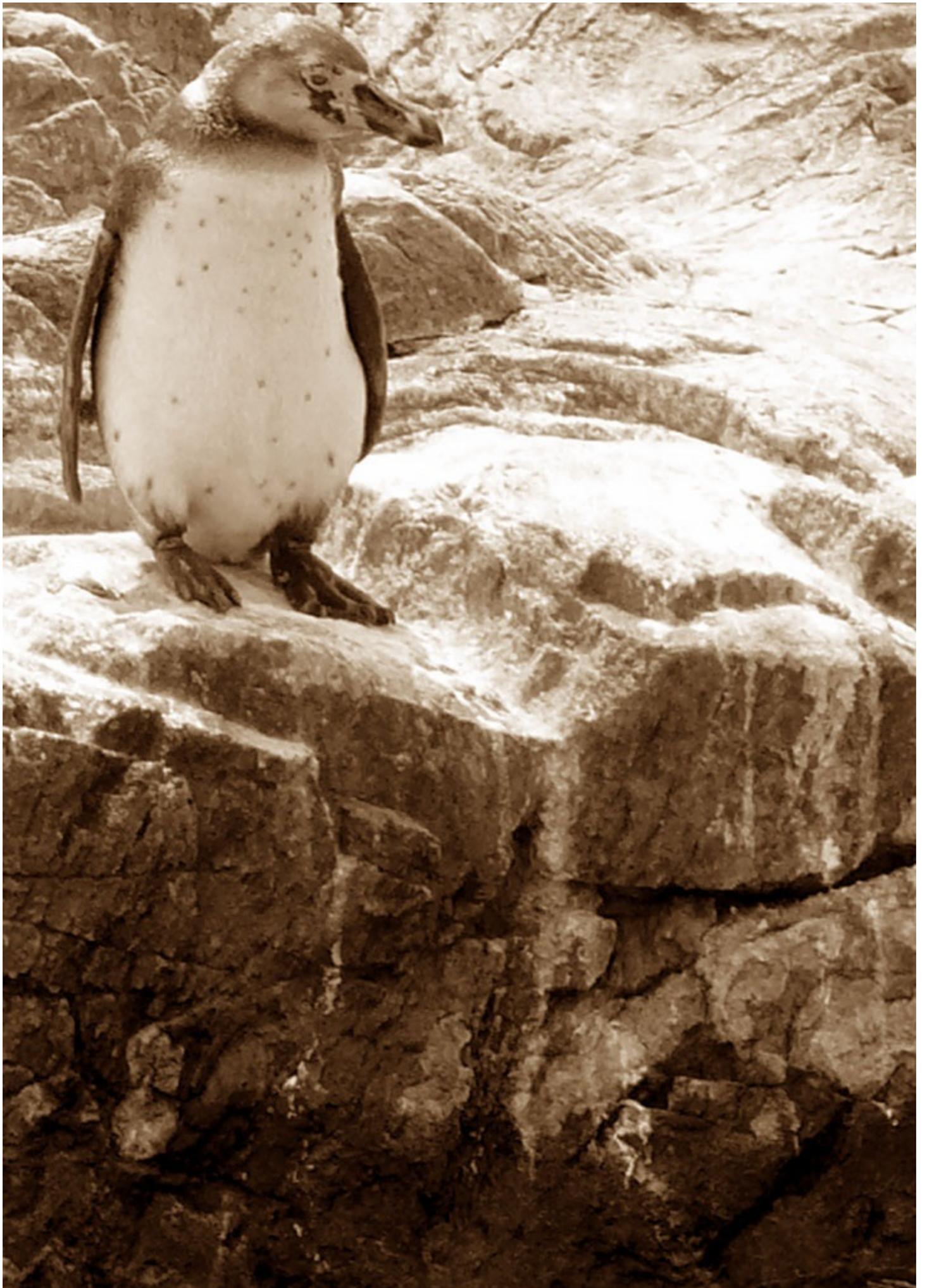
水の中はやっぱり良い。



体が軽い。

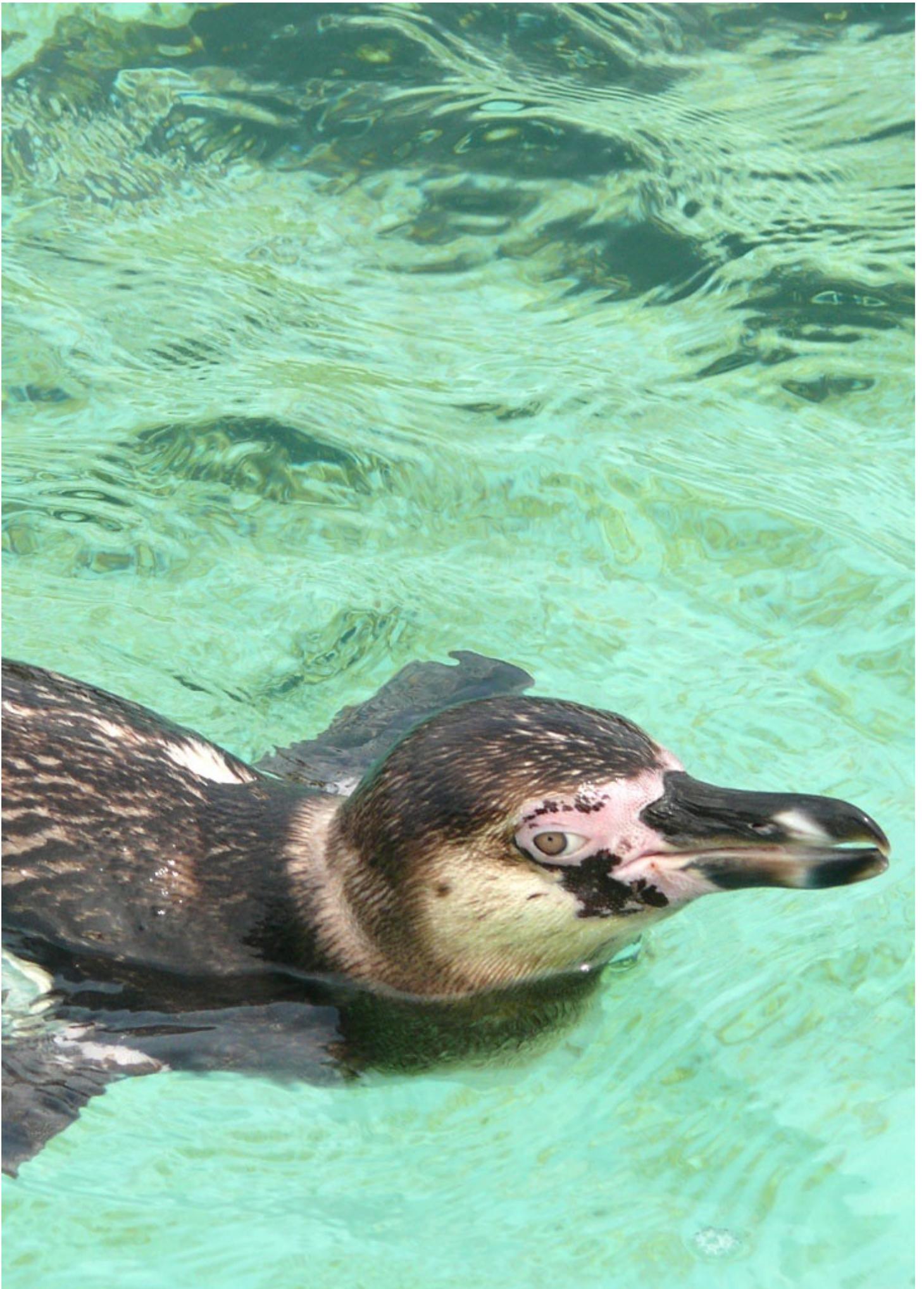


軽すぎて不安になるくらいだ。



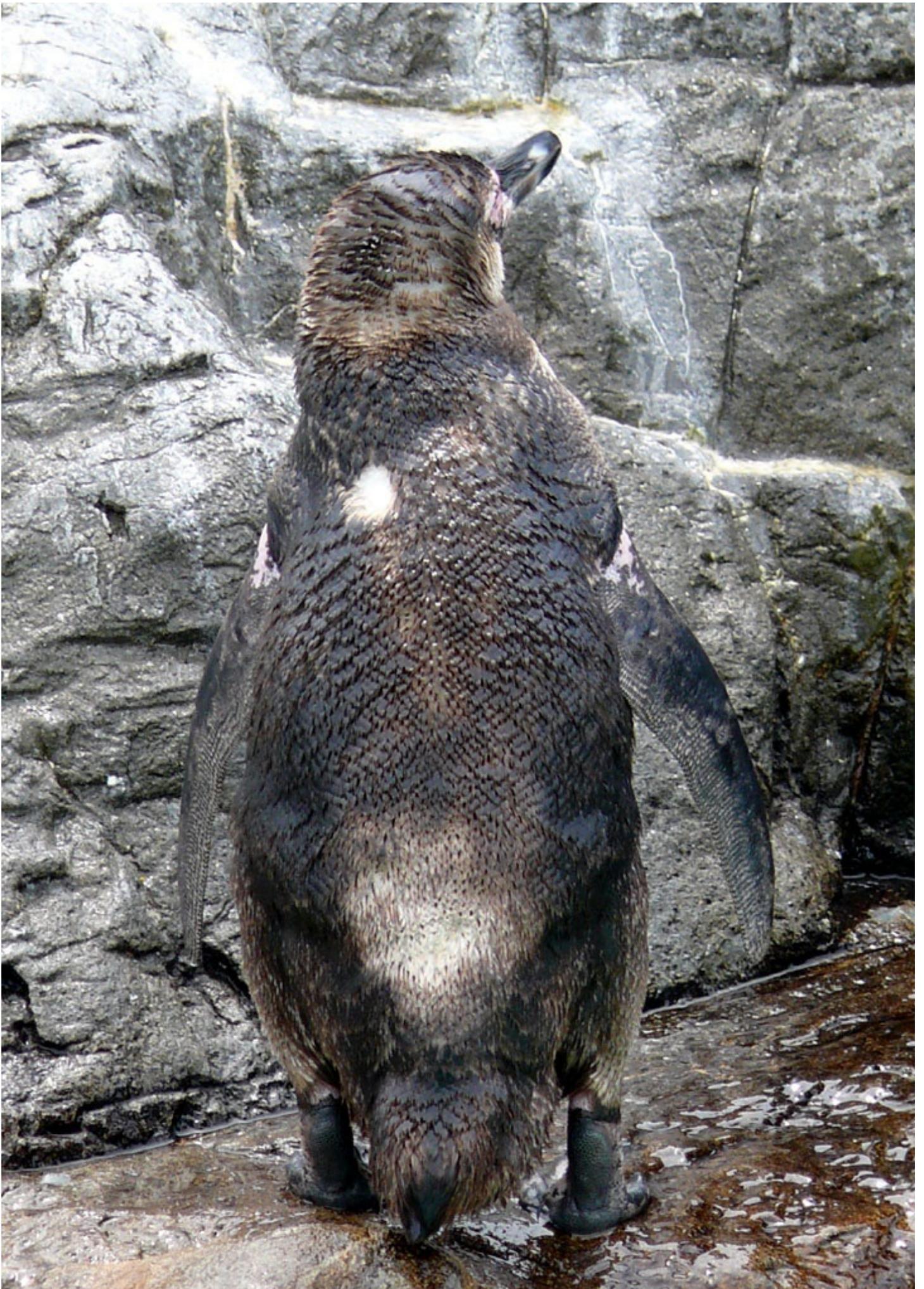


なんだ？

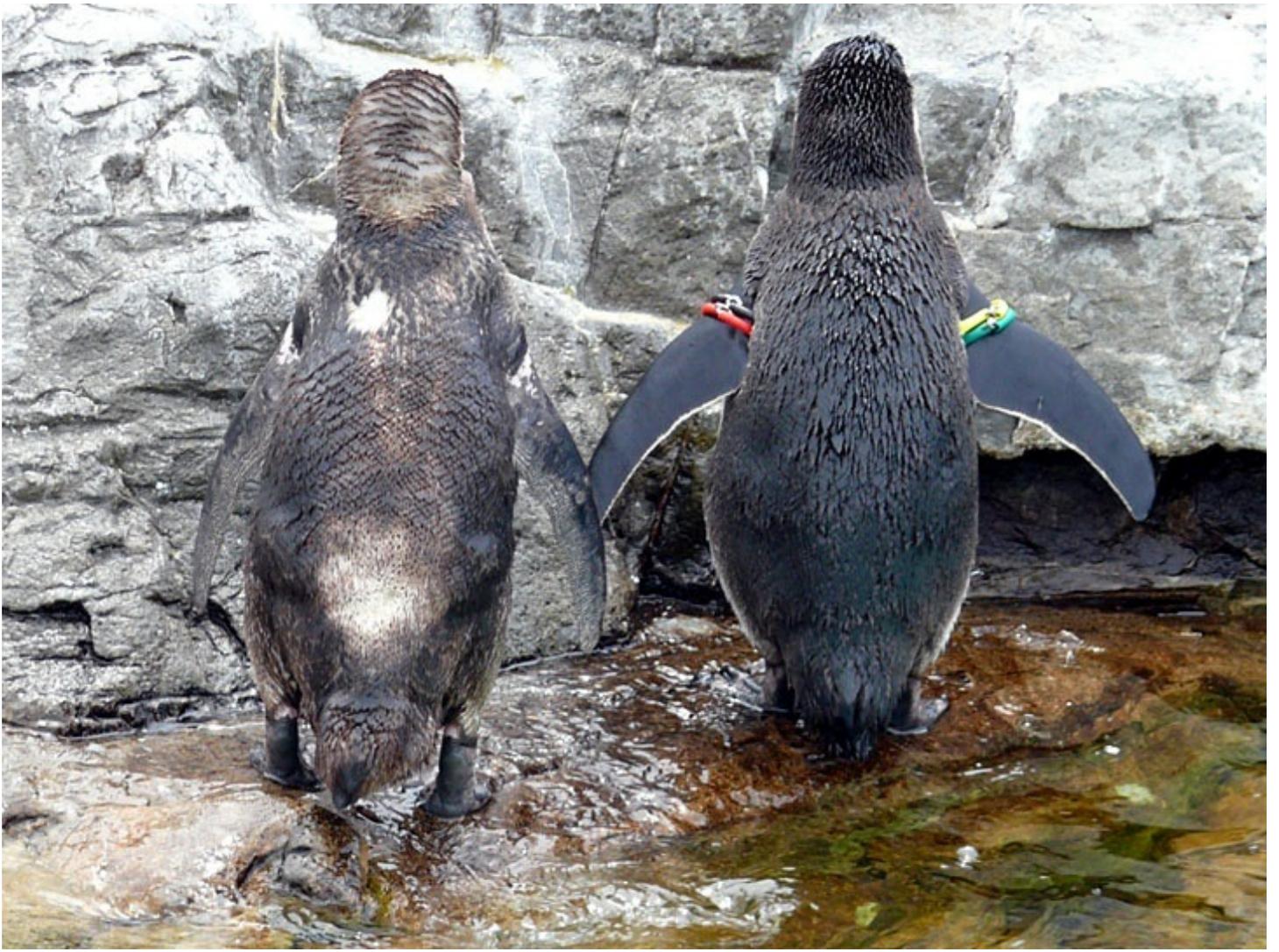


うっとうしい奴だな。

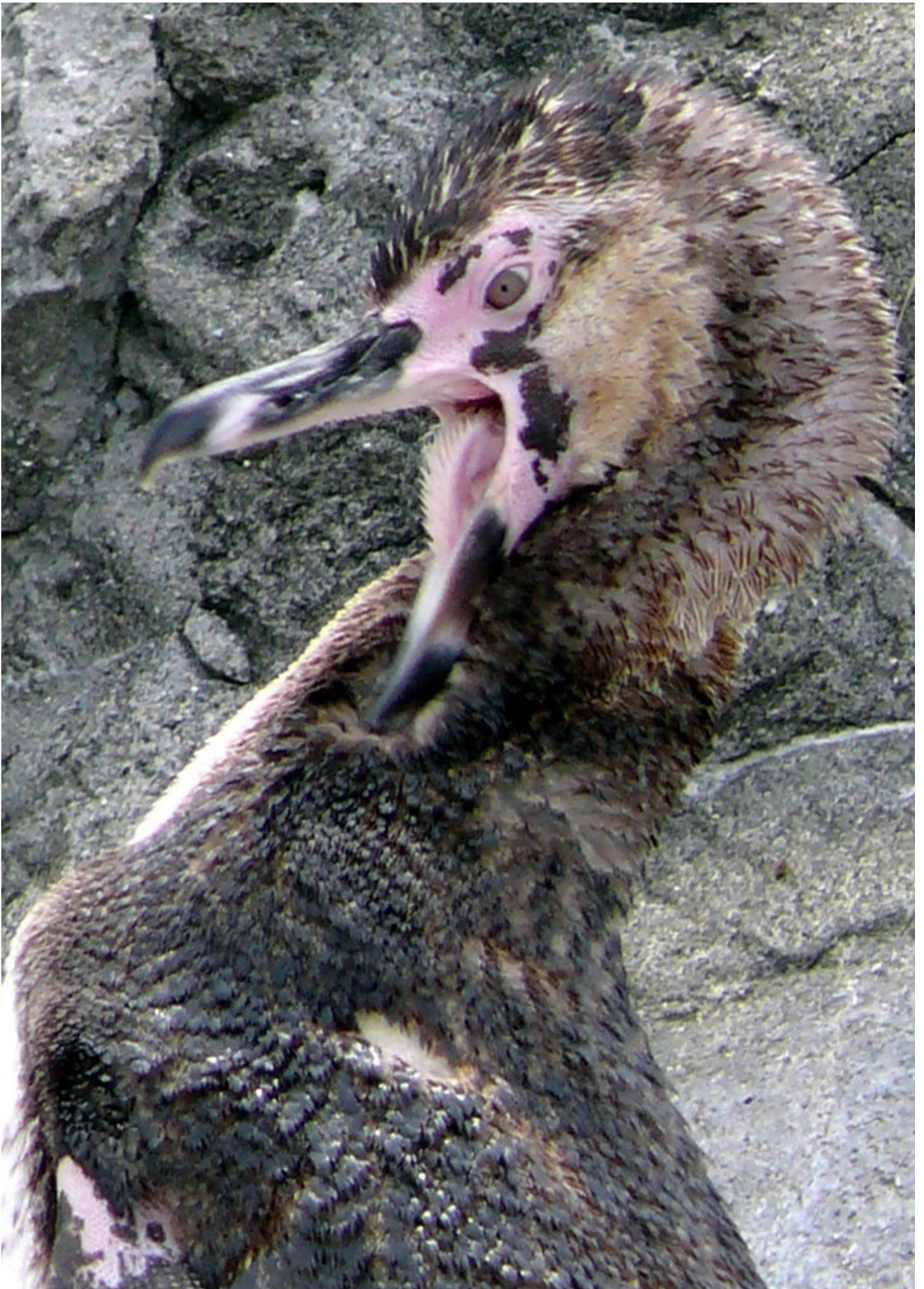




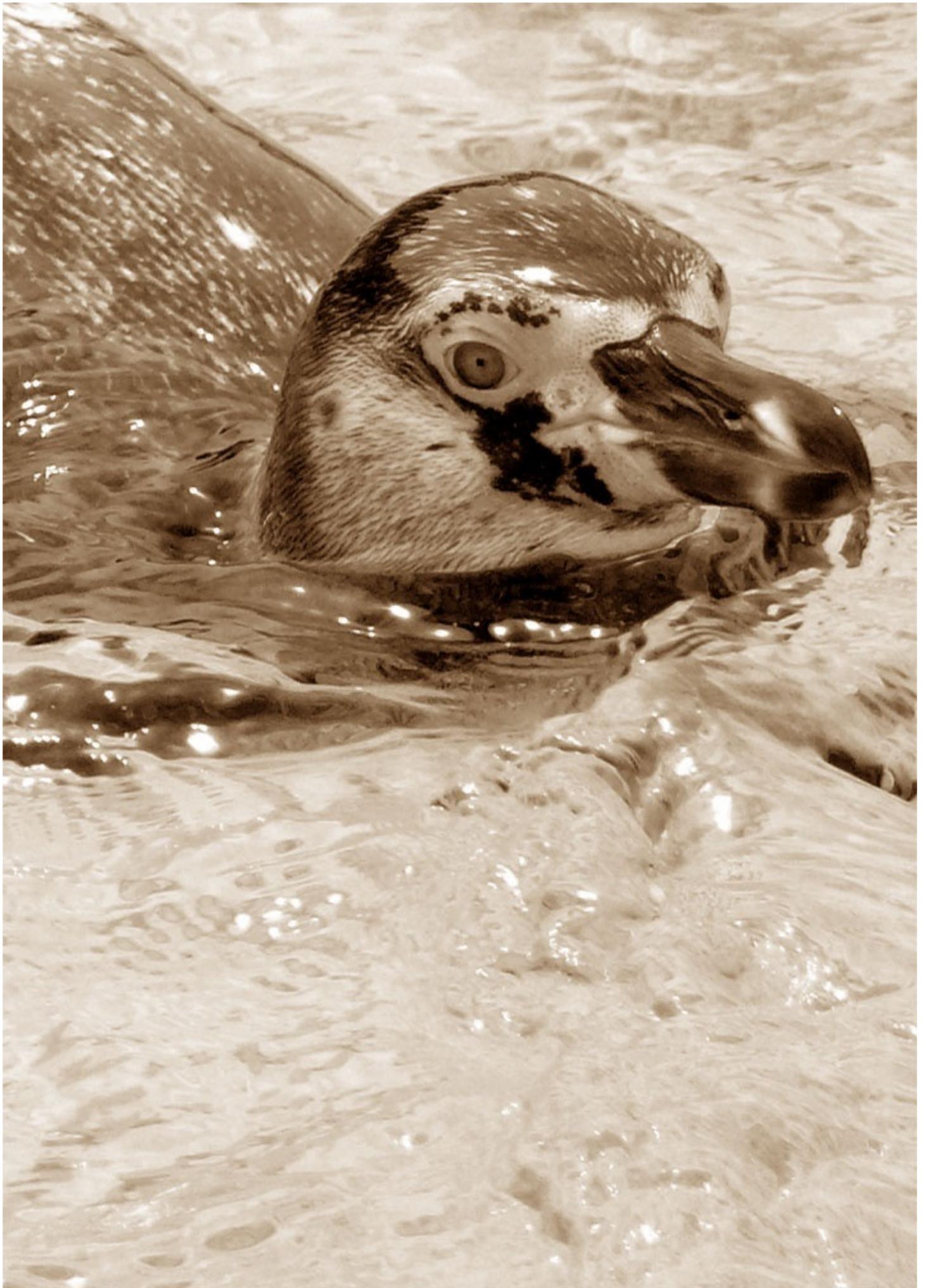
羽根なんて、そのうち生え変わる。



とりかえしの付かない事なんて、ほんの少ししかないんだ。

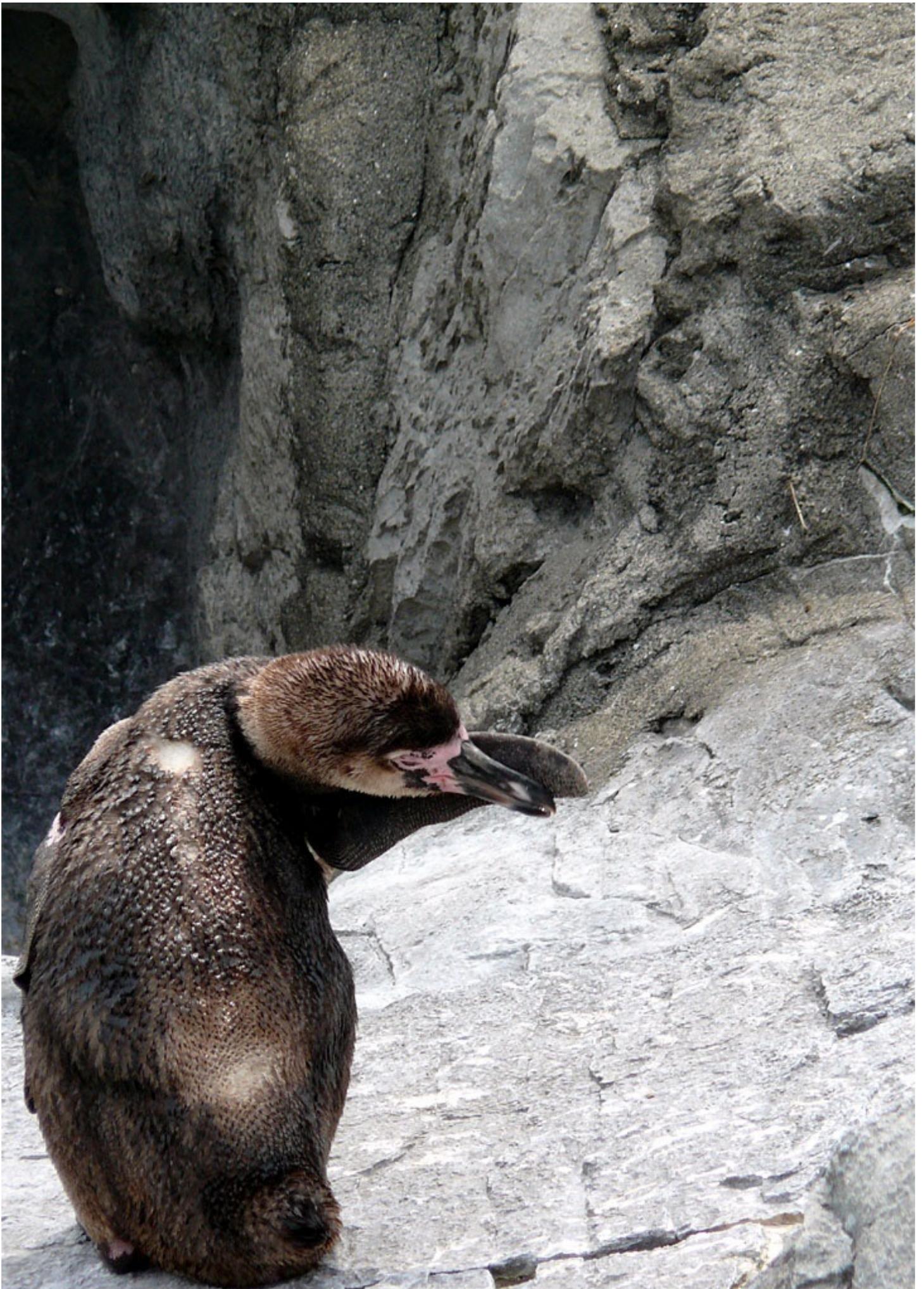


叫ぶのを我慢ばかりしていると、叫び方を忘れてしまう。



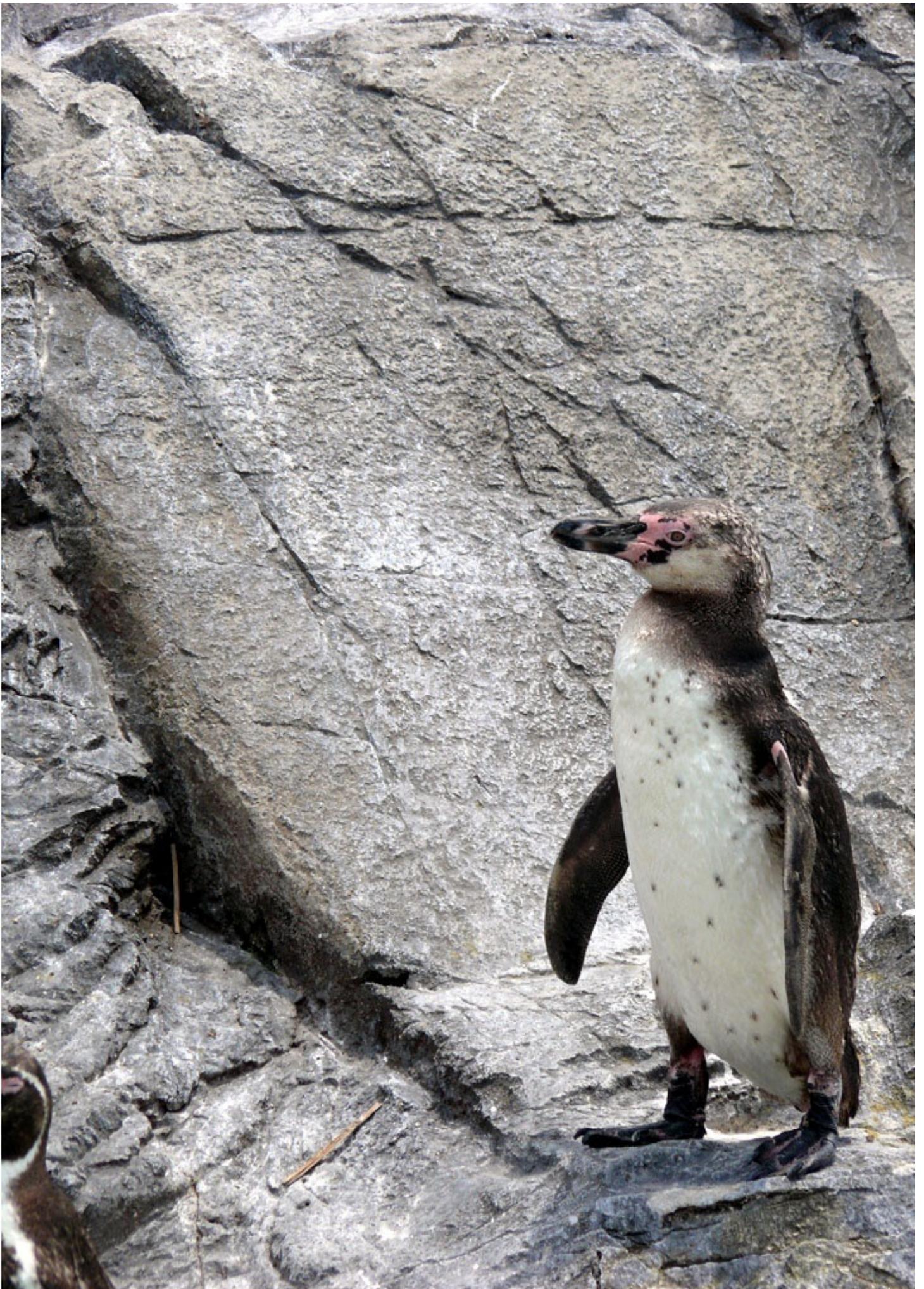


憂鬱はふいにやって来る。だが、そういうもんだと知ってれば耐えられる。

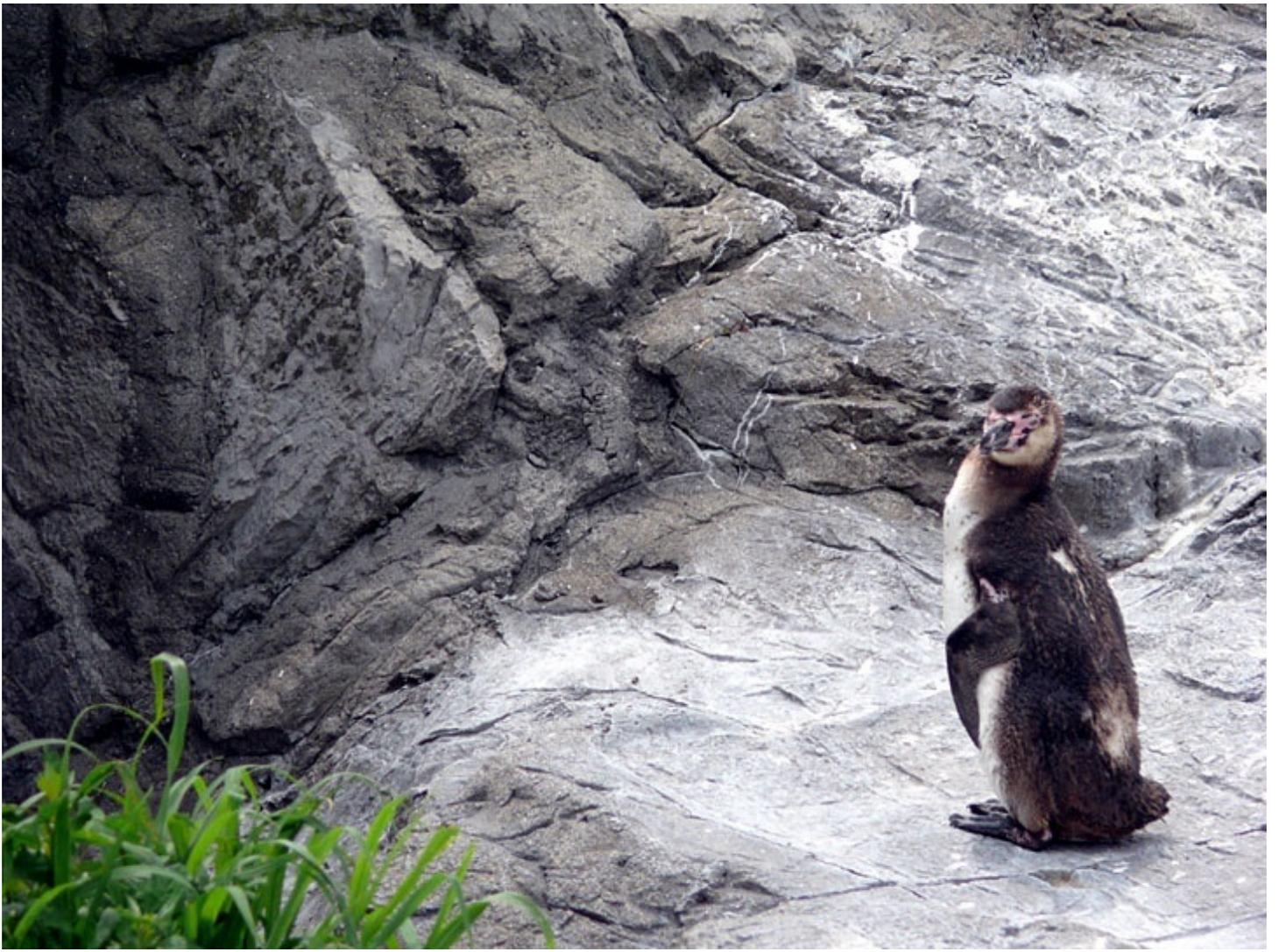


思い出したくもないって事でも、いつか平気で思い出せる日が来ることもある。

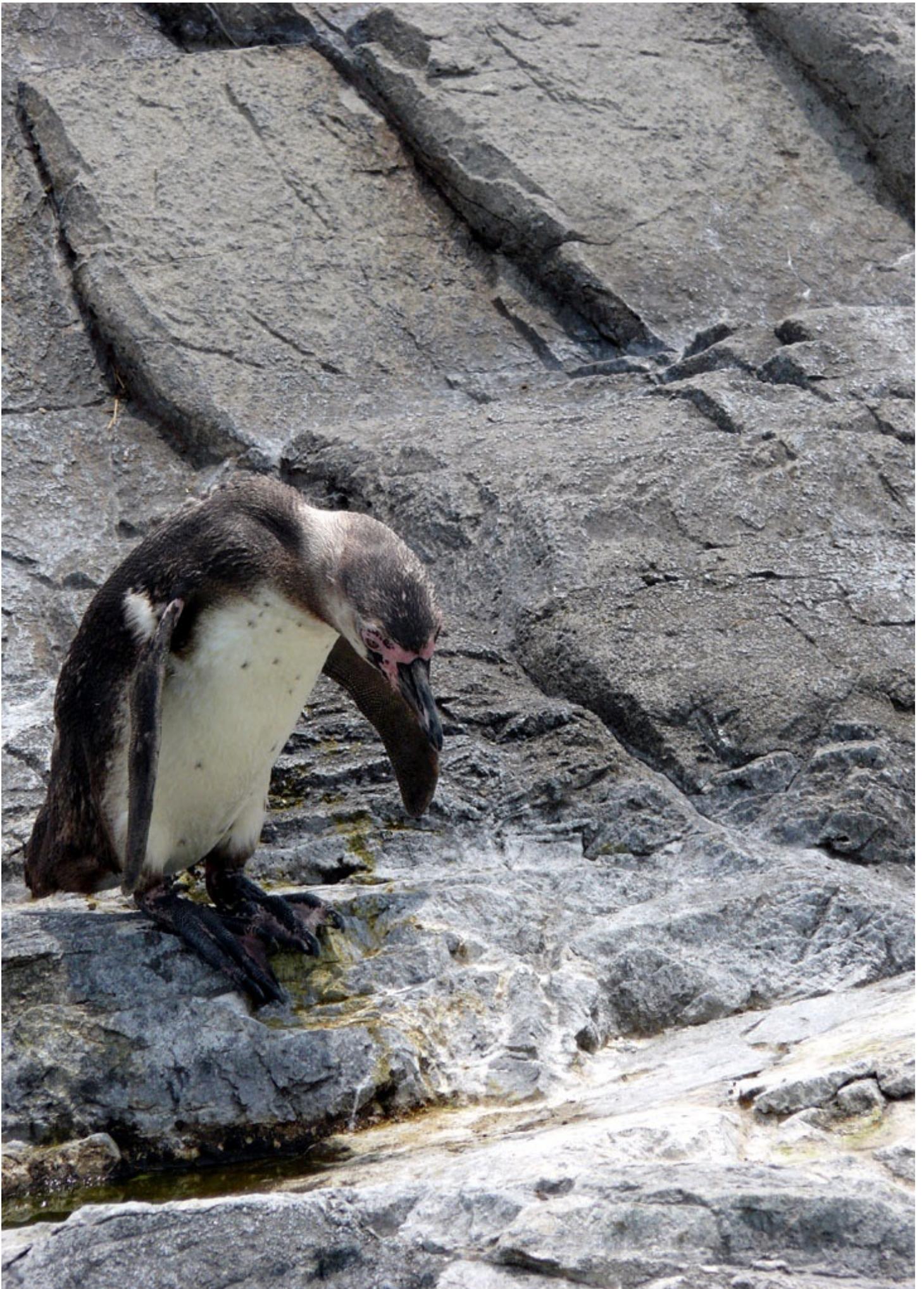




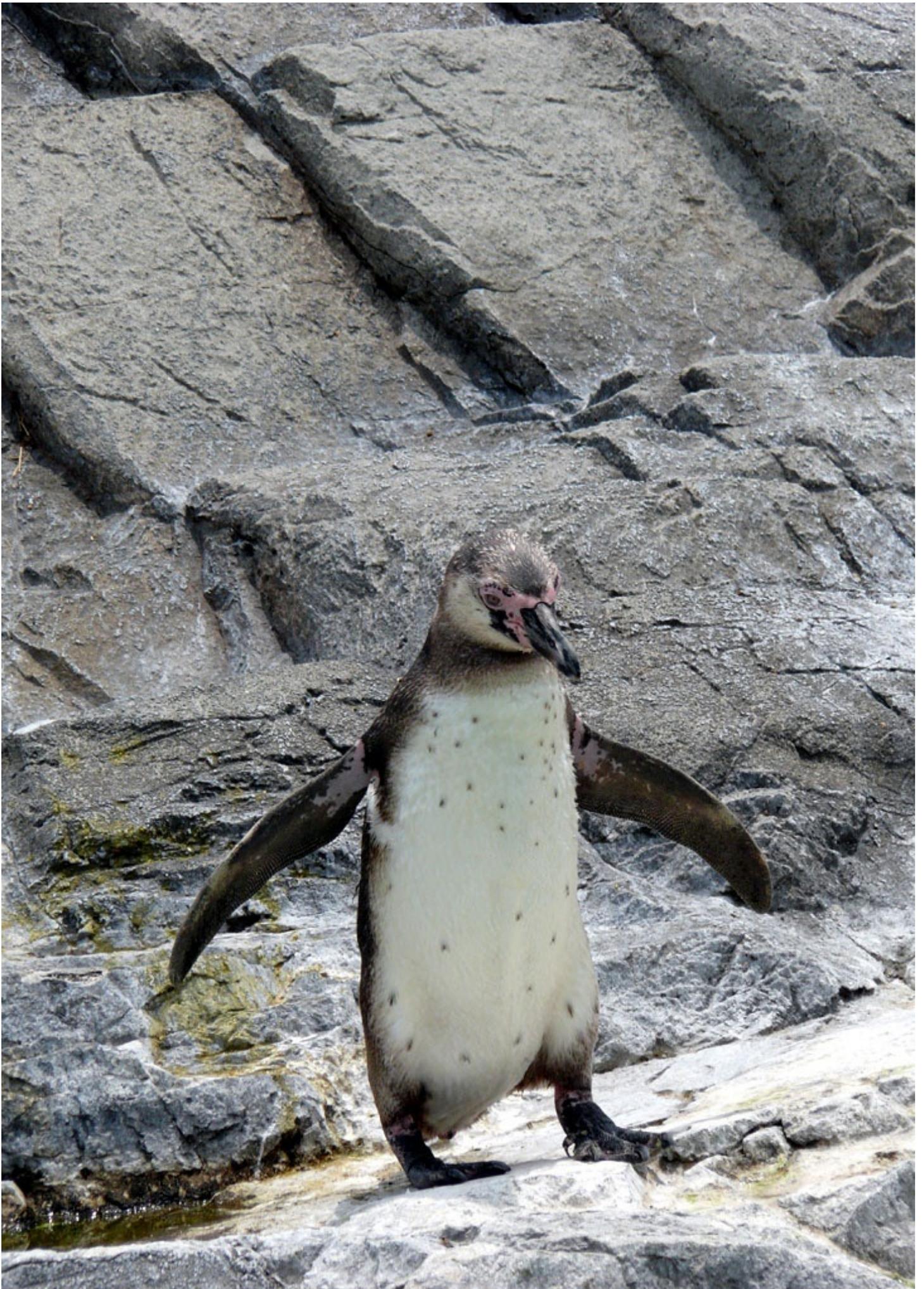
向こうには何があるんだろう？



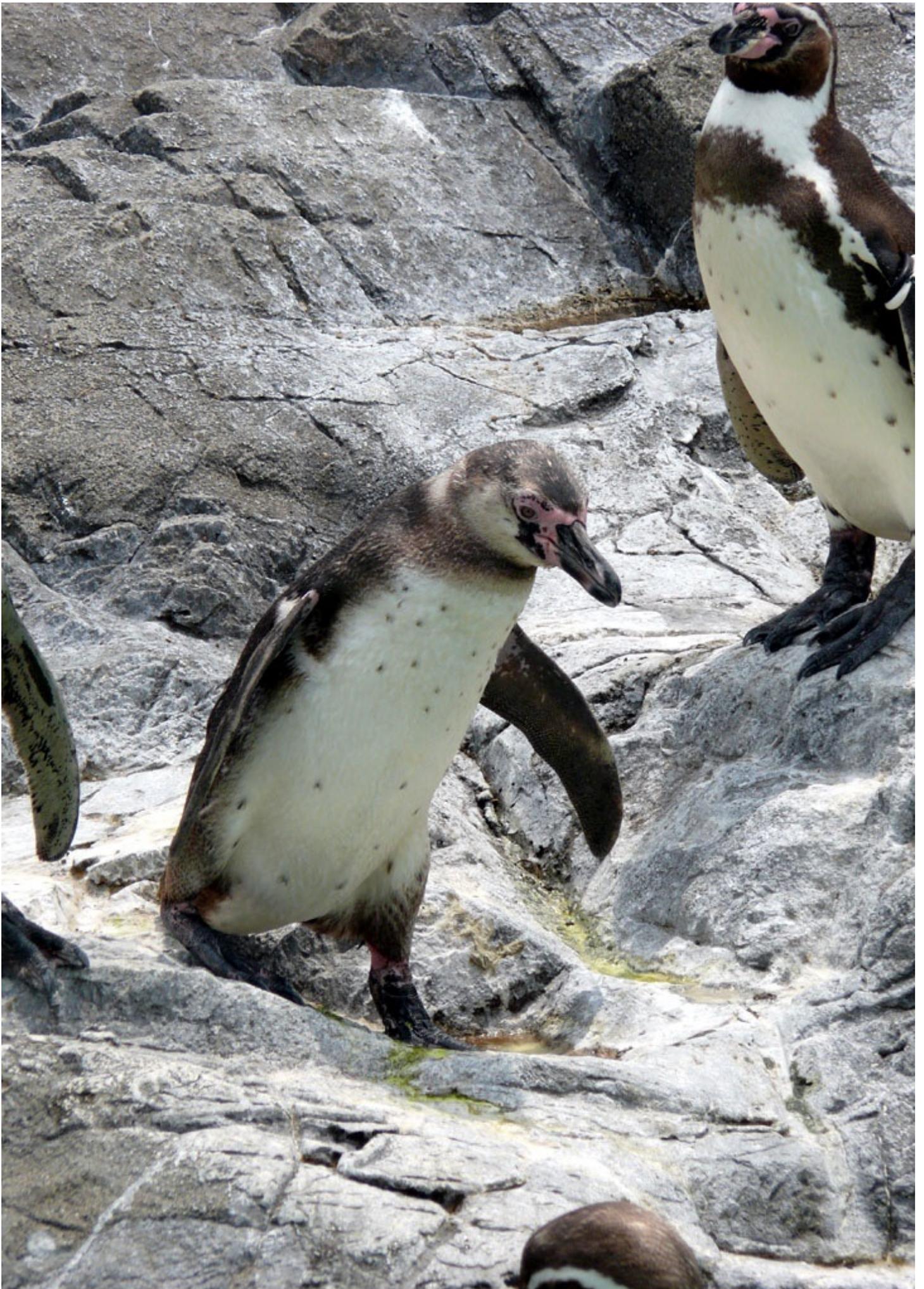
好奇心を無くすってのは、心が死にかけてるって事だ。



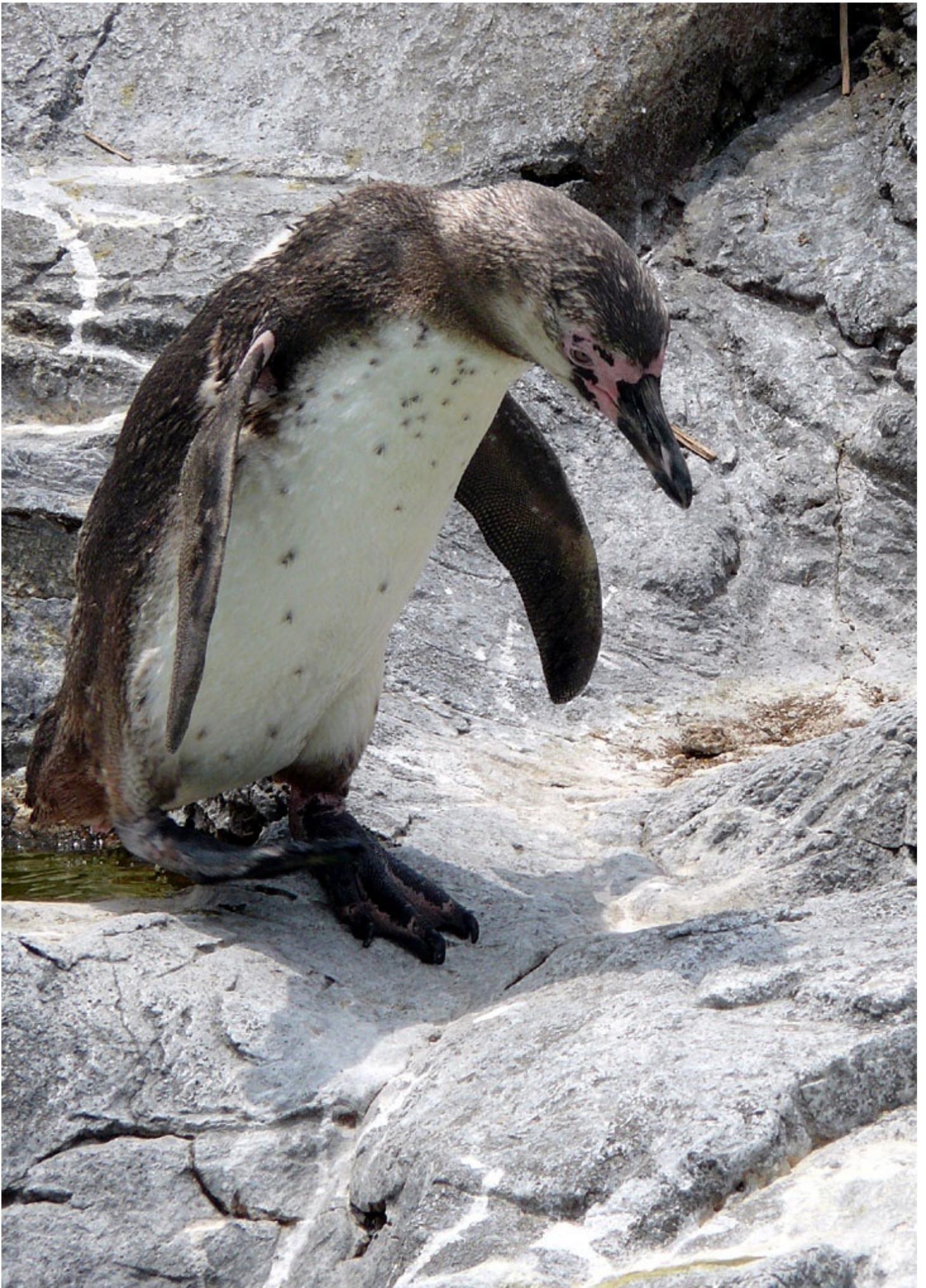
最初の一步、



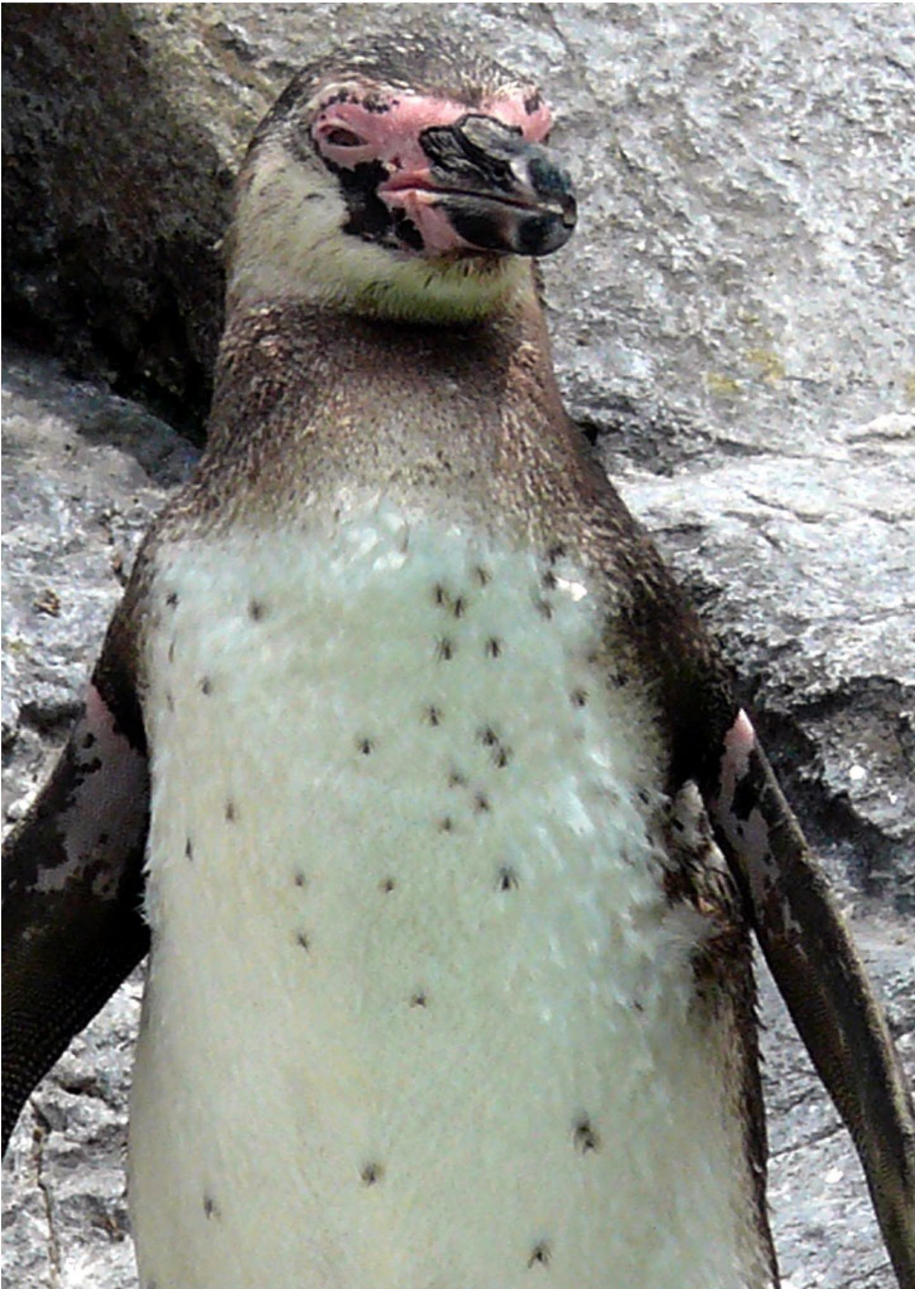
次の一歩、



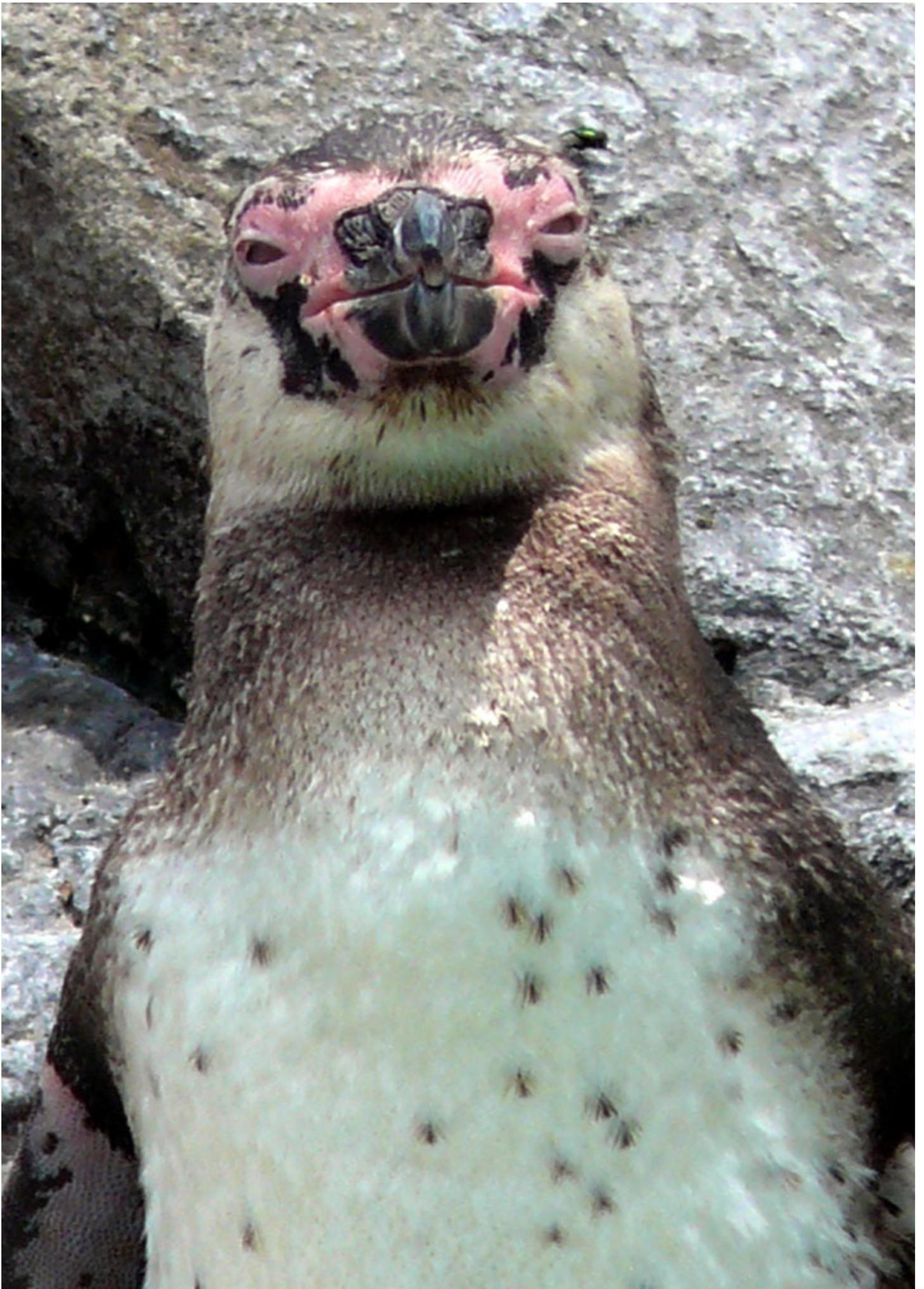
そうやって続けてれば、いずれたどり着く。



たどり着けなくても、近づける。

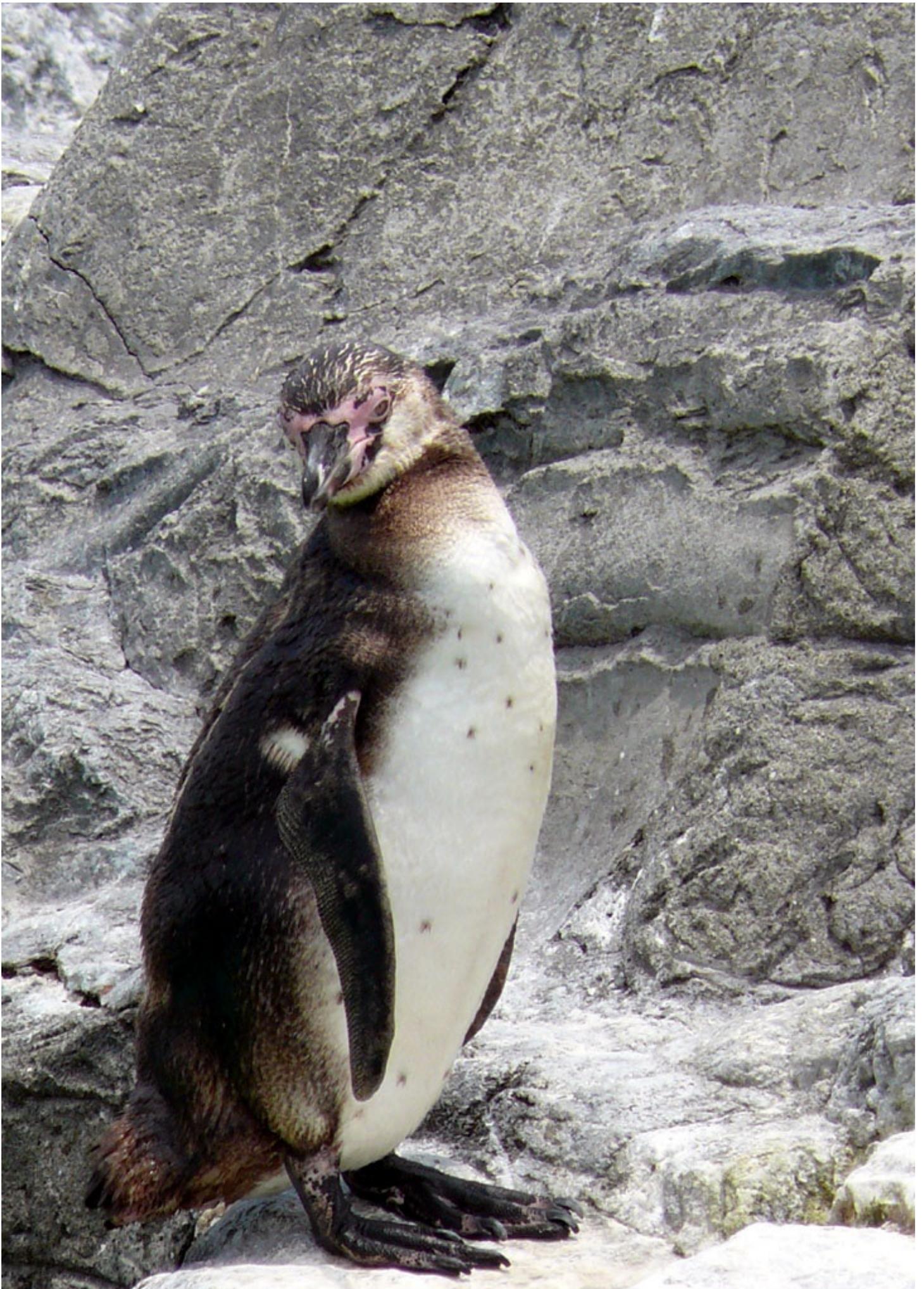


努力は必ず報われるなんて、成功者の戯言だって知ってるさ。

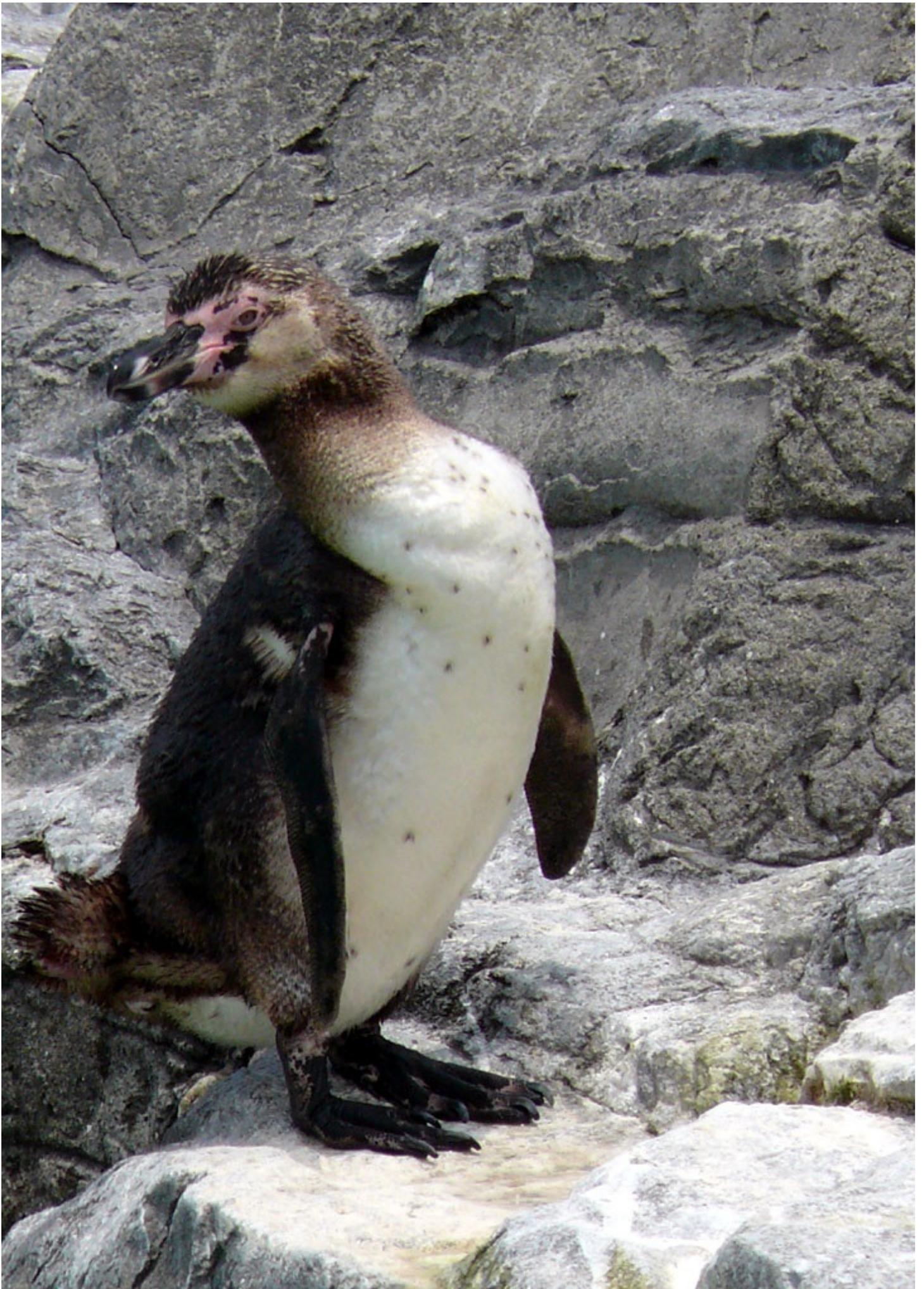


報われたための努力なんて、その程度のもんだ。

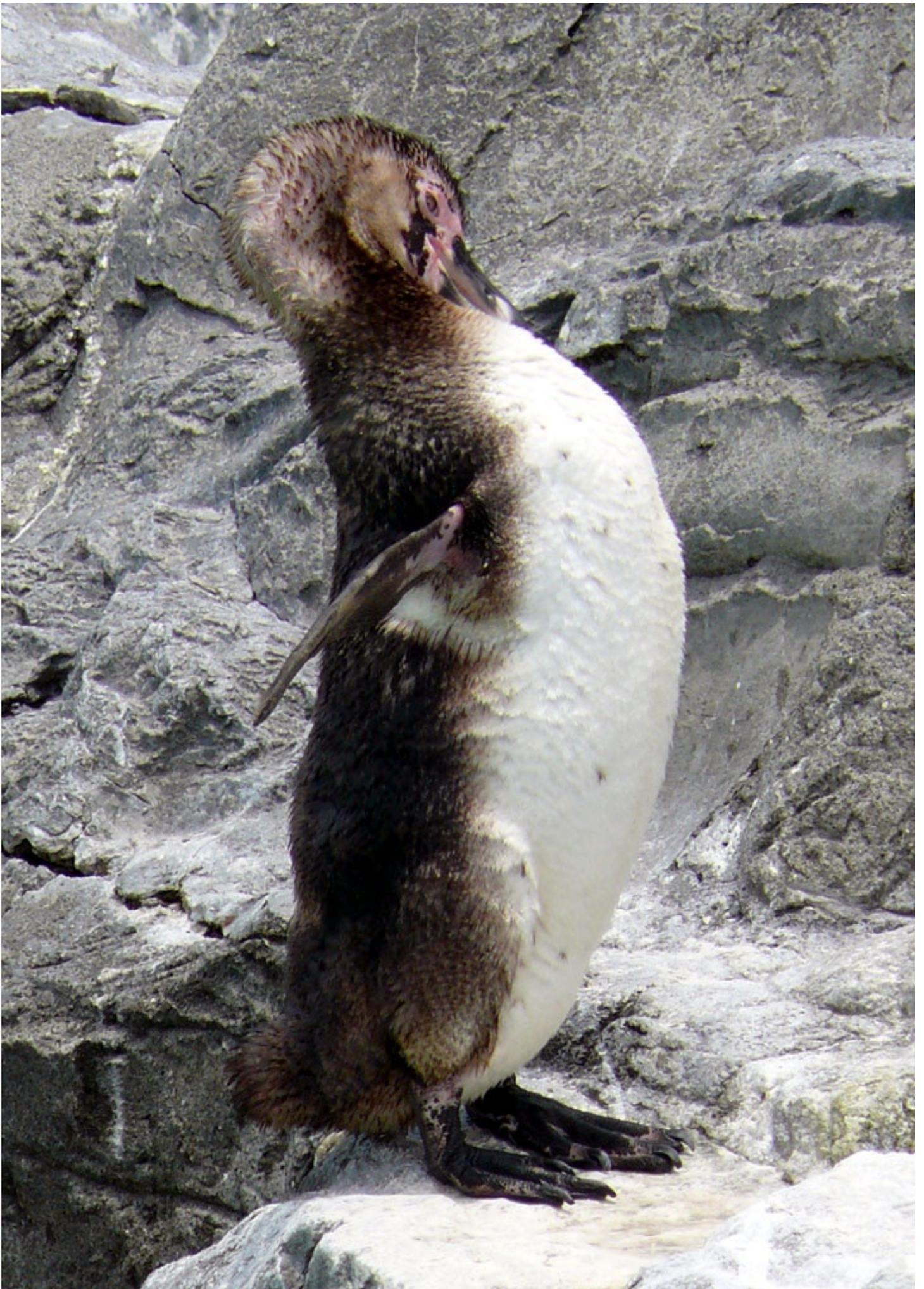




退屈だって？



退屈って言う奴は、お前自身が退屈な奴だと言ってるとようなもんだ。



退屈なのは環境じゃなくて、



お前の心だ。



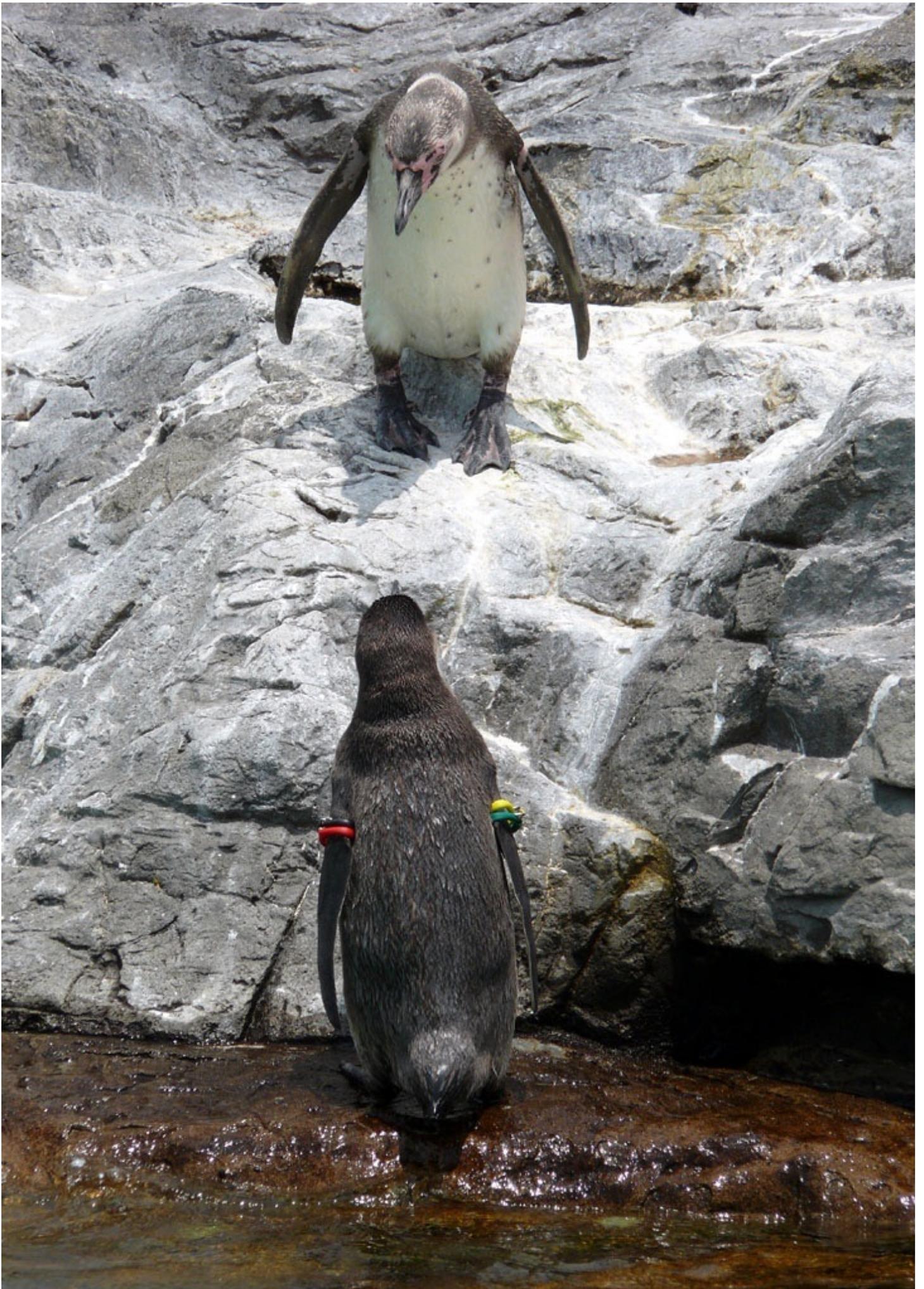
我慢が足りないって？



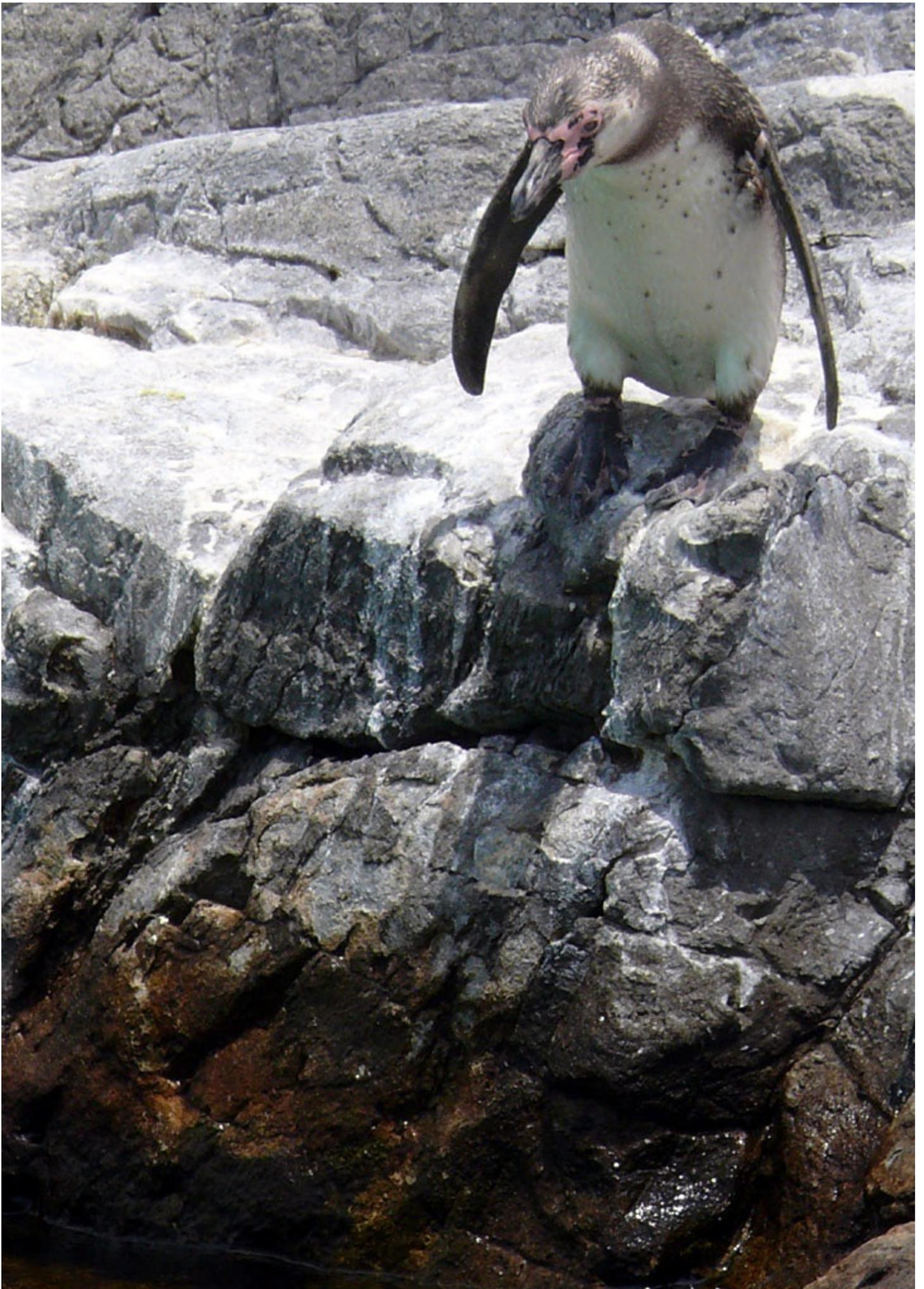
我慢できない奴だけが次に進むんだろ。



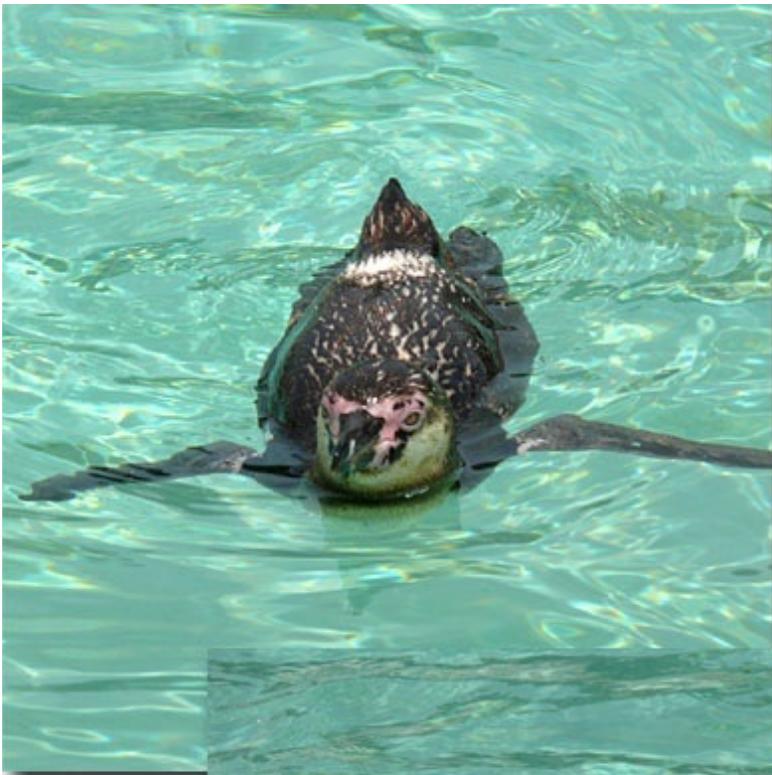
お互いに気持ちの良い距離って難しいもんだな。



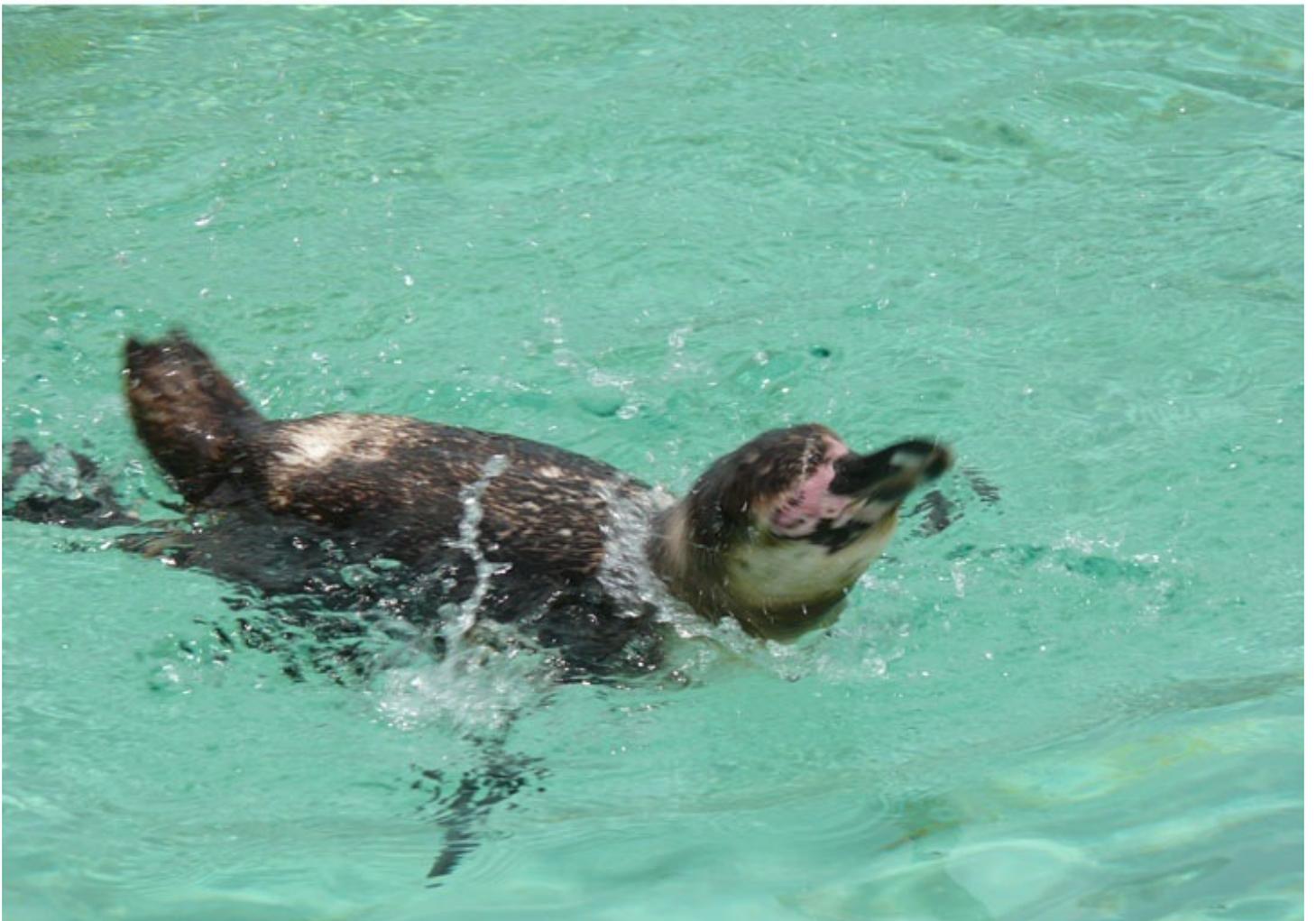
このくらいが限界か。



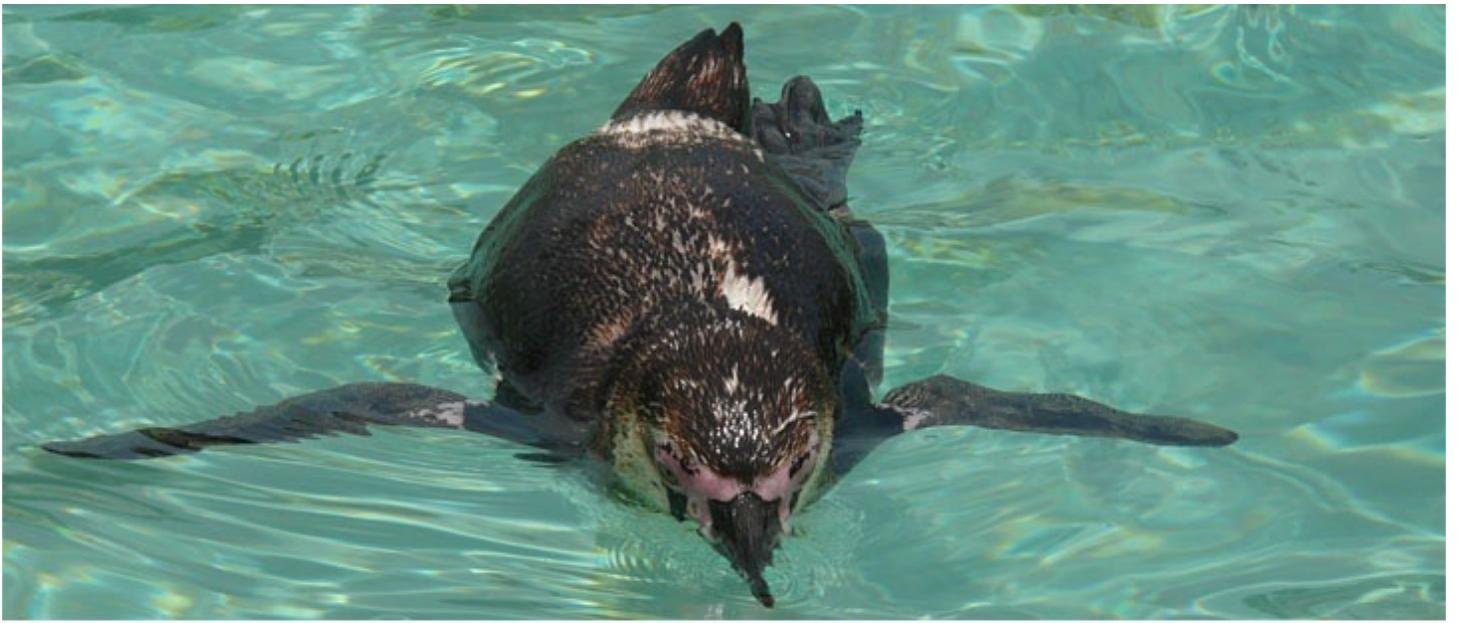
やらない言い訳を考えてる暇があったら動けよ。

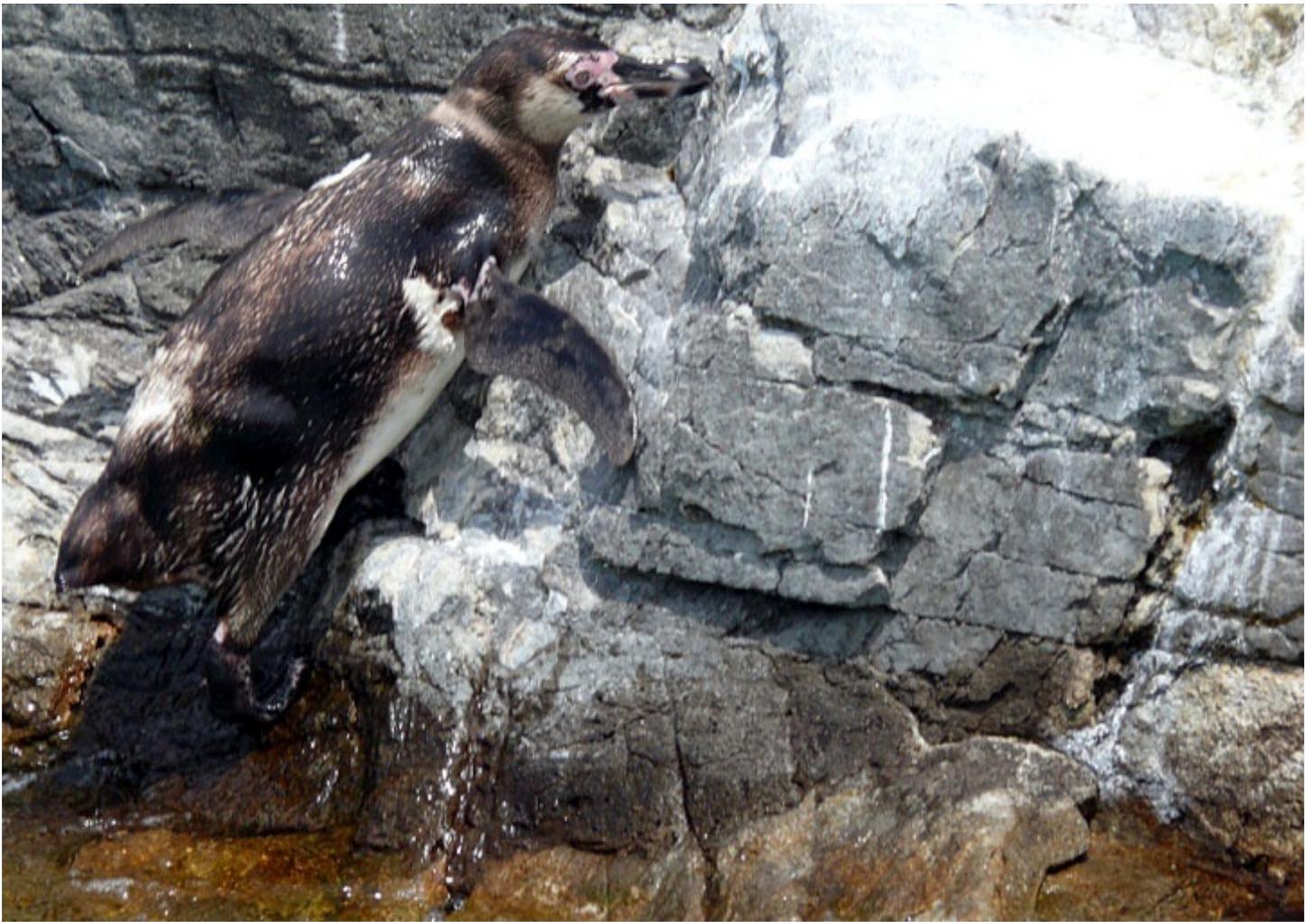




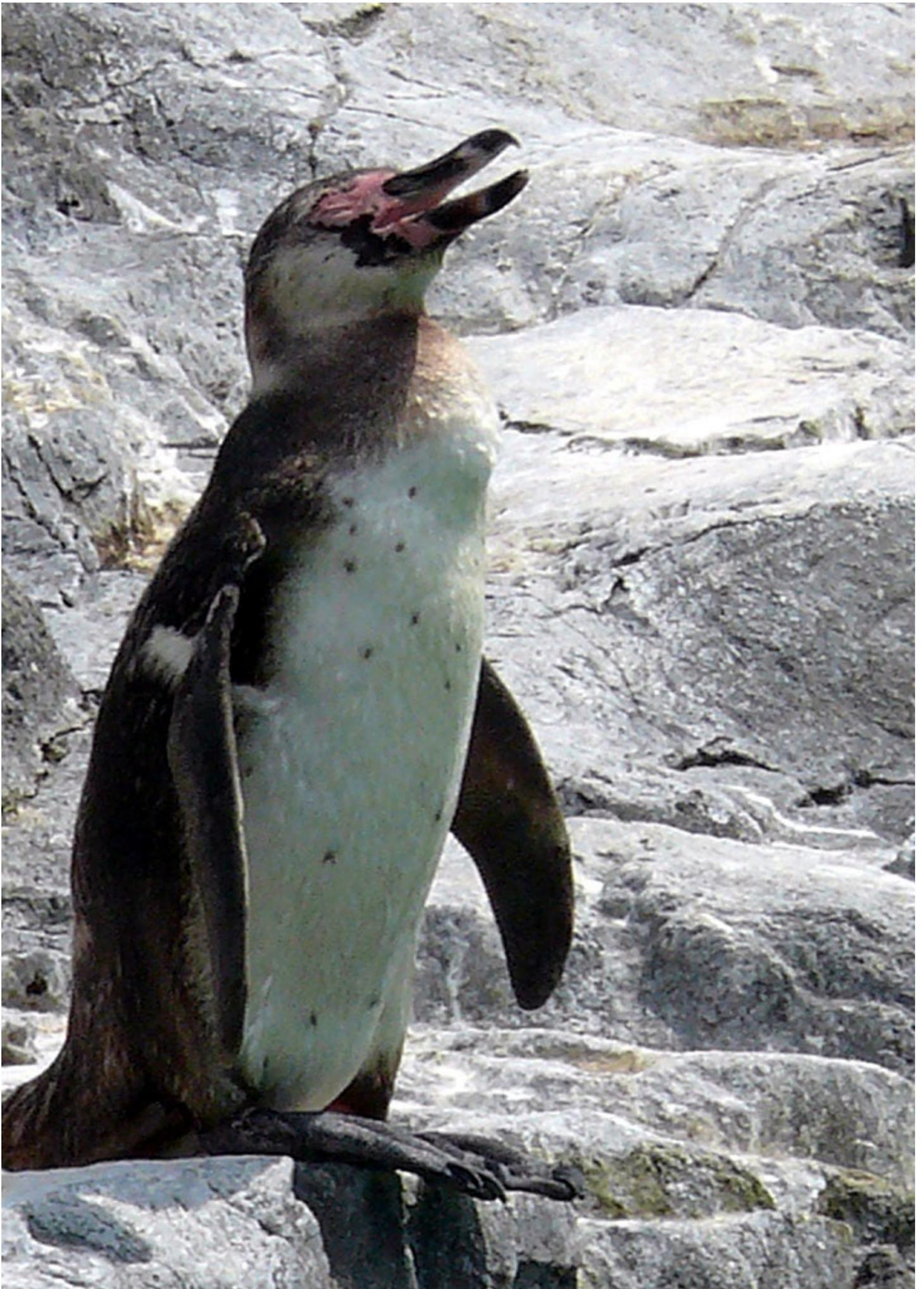








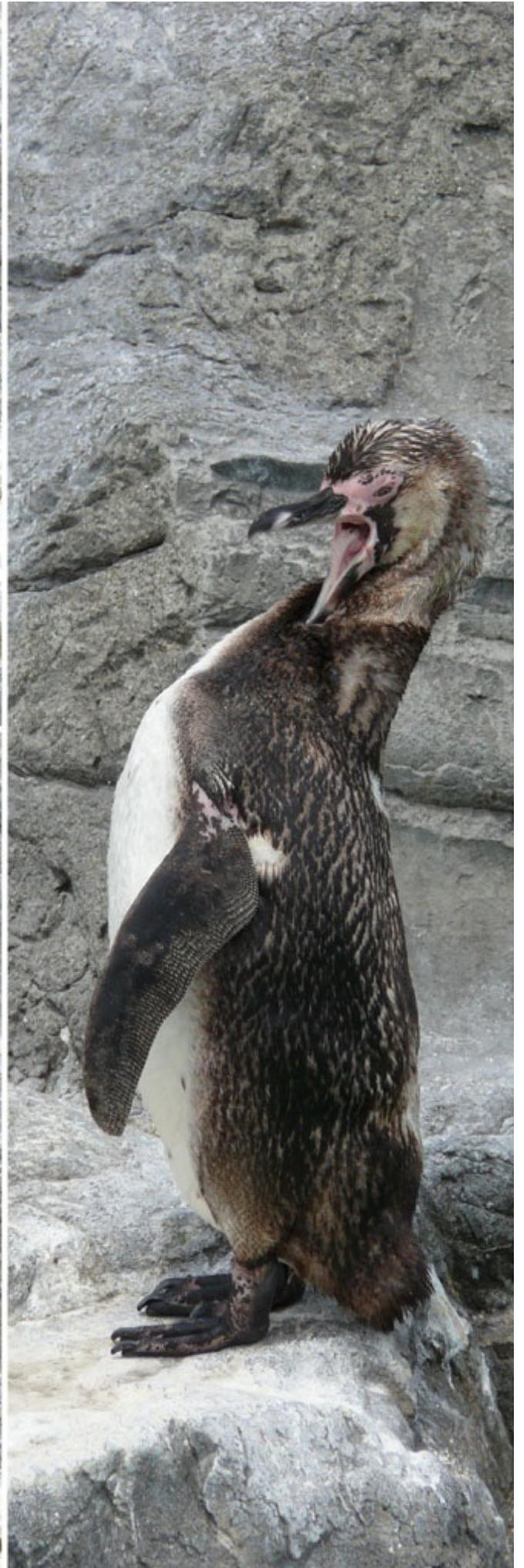
落ちる事を怖がりながら登るんだ。恐怖心の無い奴は想像力も無い。

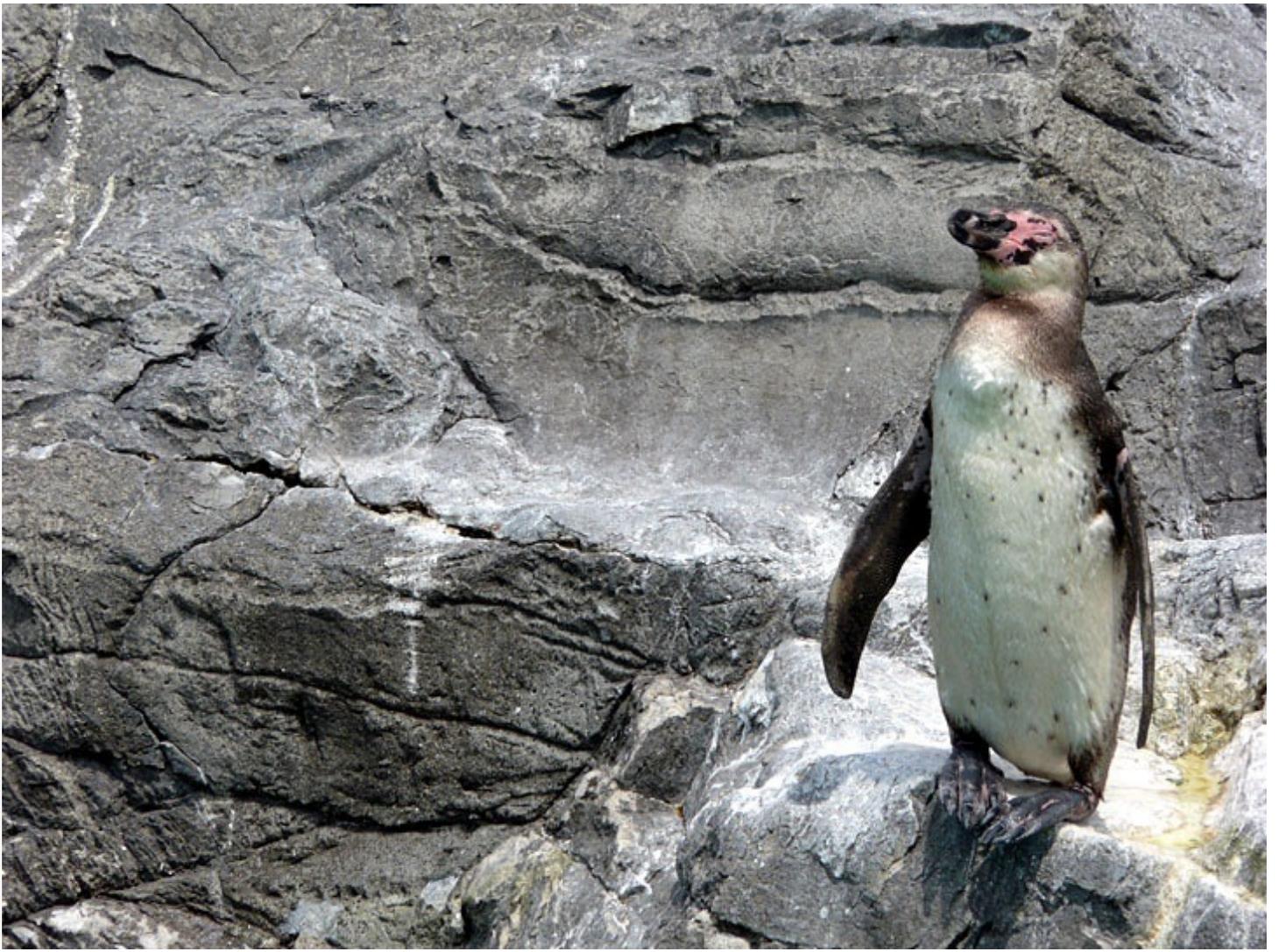


ため息が出るのは仕方ない。だから、せめて上を向いて。



リラックスは大事。深刻な自分に満足しないために。





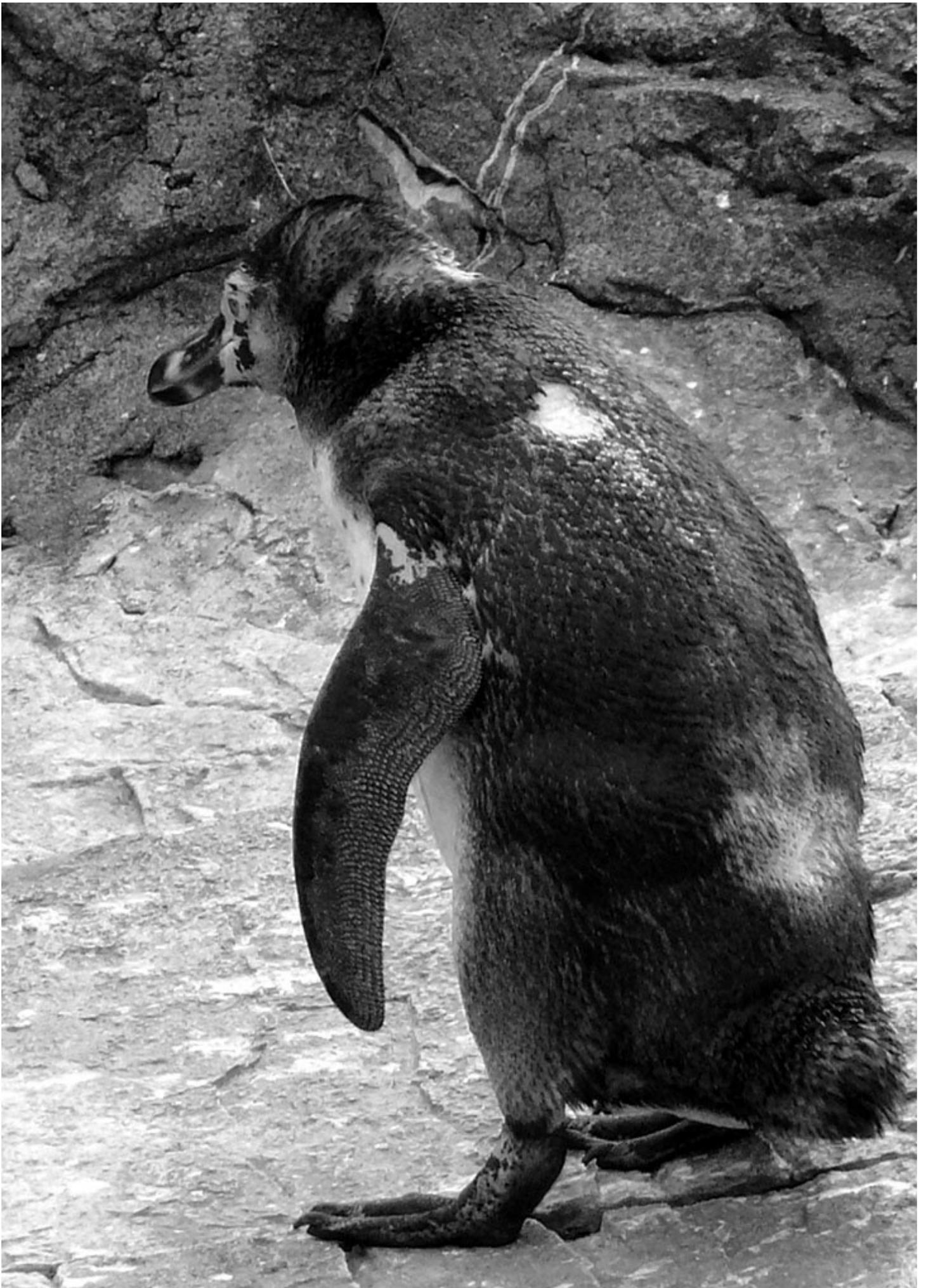
ひとりが怖い？



それは、まだ資格を手に入れてないからだ。



ひとりになれる資格を。



用が無いんなら、もう行くぜ。

—脱走ペンギン写真集—

# 幼鳥 337 号の憂鬱



発行 2012年6月17日

Copyright (C) 2012 Shijima Itazawa All Rights Reserved.

一脱走ペンギン写真集ー 幼鳥337号の憂鬱

<http://p.booklog.jp/book/52236>

著者：いたざわしじま

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/shijimaita/profile>

著者ブログ

<http://kuzukago.exblog.jp/>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/52236>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/52236>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ